

ユニットプライス型積算のための数量算出要領
(案)

平成21年4月

国土交通省

目次

第1編 共通編

第1章 基本事項	1-1-1
1. 1 適用範囲	1-1-1
1. 2 数量計算方法	1-1-1
1. 3 構造物の数量から控除しないもの	1-1-2
1. 4 構造物の数量に加算しないもの	1-1-2
1. 5 数量計算の単位及び数位	1-1-3
1. 6 設計表示単位及び数位	1-1-4
1. 7 図面表示単位	1-1-9
1. 8 単位体積質量	1-1-9
1. 9 数量の算出	1-1-10

第2編 ユニット編

第1章 土工	2-1-1
1. 1 土工	2-1-1
1. 2 法面整形工	2-1-10

第2章 地盤改良	2-2-1
2. 1 サンドマット工	2-2-1
2. 2 置換工	2-2-2
2. 3 固結工	2-2-3

第3章 コンクリート	2-3-1
3. 1 場所打擁壁工	2-3-1
3. 2 場所打函渠工	2-3-4

第4章 道路・舗装	2-4-1
4. 1 コンクリートブロック工	2-4-1
4. 2 植生工	2-4-6
4. 3 法面吹付工	2-4-8
4. 4 プレキャスト擁壁工	2-4-9
4. 5 舗装準備工	2-4-10
4. 6 橋面防水工	2-4-12
4. 7 アスファルト舗装工（性能規定型発注）	2-4-13
4. 8 アスファルト舗装工	2-4-14
4. 9 排水性舗装工（性能規定型発注）	2-4-16
4. 10 排水性舗装工	2-4-17
4. 11 透水性舗装工	2-4-18
4. 12 コンクリート舗装工	2-4-19
4. 13 薄層カラー舗装工	2-4-20
4. 14 ブロック舗装工	2-4-21
4. 15 側溝工	2-4-22
4. 16 管渠工	2-4-23
4. 17 プレキャストカルバート工	2-4-24
4. 18 縁石工	2-4-26
4. 19 踏掛版工	2-4-29
4. 20 区画線工	2-4-30

4. 2 1	境界工.....	2-4-34
4. 2 2	道路付属物工.....	2-4-35
4. 2 3	小型標識工.....	2-4-39
4. 2 4	大型標識工.....	2-4-42
4. 2 5	路側防護柵工.....	2-4-43
4. 2 6	防止柵工.....	2-4-44
第5章	河 川.....	2-5-1
5. 1	基礎工.....	2-5-1
5. 2	矢板工.....	2-5-3
5. 3	多自然型護岸工.....	2-5-4
5. 4	かご工.....	2-5-5
第6章	橋梁上部.....	2-6-1
6. 1	伸縮装置工.....	2-6-1
第7章	維 持.....	2-7-1
7. 1	道路植栽工.....	2-7-1
第8章	撤 去.....	2-8-1
8. 1	運搬処理工.....	2-8-1

[参考資料]「平成 21 年度版 土木工事数量算出要領（案）」との対応表

- ※ 章は、「新土木工事積算大系用語定義集」の区分により設定している。
- ※ 節は、新土木工事積算大系の種別（レベル3）により設定している。

第 1 編 共通編

1 章 基本事項

1 章 基本事項

- 1.1 適用範囲
- 1.2 数量計算方法
- 1.3 構造物の数量から控除しないもの
- 1.4 構造物数量に加算しないもの
- 1.5 数量計算の単位及び数位
- 1.6 設計表示単位及び数位
- 1.7 図面表示単位
- 1.8 単位体積質量
- 1.9 数量の算出

第1章 基本事項

1. 1 適用範囲

ユニットプライス型積算方式による試行工事のうち築堤・護岸、道路改良及び舗装に係る工事数量の計算にあたっては、本要領を適用する。

なお、本要領に掲載されていないユニット区分は、「土木工事数量算出要領（案）」を適用するものとする。

1. 2 数量計算方法

数量の単位は、計量法によるものとする。

長さ・面積・断面積等の計算は数学公式によるほか、スケールアップ、プランメーター等、平均面積（断面）法により行うものとする。また、CAD ソフトによる算出結果について、適宜結果の確認をした上で適用できるものとする。

算式計算の乗除は、記載の順序によって行ない、四捨五入して位止めするものとする。

1. 数量の単位は、すべて計量法によるものとする。
2. 長さの計算
長さの計算は数学公式によるほか、スケールアップによることができる。
スケールアップによるときは、2回以上の実測値の平均値とする。
3. 面積の計算
 - (1) 面積の計算は数学公式によるほか、3斜誘致法、又はプランメーターによって算出する。プランメーター等を使用するときは、3回以上測ったもののうち、正確と思われるもの3回の平均値とする。
 - (2) 面積計算で各法長が一定でないときは、両辺長を平均したものにその断面間の距離を乗ずる平均面積法により算出する。
 - (3) 上記（1）、（2）によることを原則とするが、CAD ソフトによる算出結果について、適宜結果の確認をした上で適用できるものとする。
4. 体積の計算
体積の計算は数学公式によるほか、両断面積の平均数量に距離を乗じる平均断面法により算出する。
5. 構造物の計算に用いる角度は「分」までとし、円周率、法長、乗率、三角関数及び弧度は四捨五入して小数第3位とする。
6. 算式計算の乗除は、記載の順序によって行ない、分数は約分せず分子分母にその値を求めた後に除法を行なうものとし、四捨五入により位止めするものとする。

1. 3 構造物の数量から控除しないもの

構造物中の鉄筋・水抜き穴等で、その容積又は面積が僅少なものは、構造物の数量から控除しなくてよいものとする。

次に掲げる種類の容積または面積は、原則として構造物の数量から控除しなくてよいこととする。

1. コンクリート中の鉄筋・鋼矢板・土留材等
2. コンクリート中の基礎杭頭
3. コンクリート中の支承座面の箱抜
4. 床版コンクリート中の主桁上フランジ
5. 鋼材中のボルト孔及び隅欠き
6. コンクリート構造物の面取り及び水切
7. コンクリート構造物の伸縮継目の間隔及び止水板
8. コンクリート構造物内の内径 30cm 以下の管類、水抜孔等
9. 基礎材（均しコン含む）中の径 30cm 以下の杭及び胴木
10. 法沿い堅排水工、地下排水工等の容積及びこれに類似のもの
11. コンクリート構造物中のモルタル注入孔及び埋込金具等の容積
12. 舗装工、床版工中の 1 箇所 1.0 m² 未満の建造物
13. 盛土中で現地盤線以上の断面積が 1.0m² 未満の建造物
14. ガードレール、ガードパイプ等防護柵の支柱の箱抜き
15. その他面積又は体積が前項に示す値以下で全体数量に及ぼす影響が僅少なものであるが、ただし、現場打杭及び杭頭部の結合方式方法Aの場合のフーチングコンクリートについては、控除する。
16. 上記 1～15 に準ずるものと判断されるもの

1. 4 構造物の数量に加算しないもの

施工時において、発注者が不相当と認めて解体・除去を命じた構造物、材料の損失等については、構造物数量には加算しないものとする。

施工時に数量を算出する必要がある場合、次に掲げる内容については、構造物の数量に加算しないものとする。

1. 品質・形状等が不相当と発注者が認め、解体・除去を命じた構造物
2. 型枠の余裕面積
3. コンクリート・鉄筋等材料の損失量
4. 鉄筋の組立・据付に使用したタイクリップ等
5. 仮締切、支保、足場工等における仮設基礎コンクリート等
6. 上記 1～5 に準ずるものと判断されるもの

1. 5 数量計算の単位及び数値

数量計算に用いる単位及び数値は、出来形管理値を参考に別途定めるものとする。

数量計算に用いる単位及び数値は表－1～3によるものとし、数値以下の数値は、有効数値1位（有効数値2位を四捨五入）を数値とするものとする。

なお、表にないものは表－1に準ずるものとする。

表－1 数量計算の単位及び数値一覧表

計算書名	種別	単位	数値	摘要
土工量	距離	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	高	m	〃 1 〃	2 〃
	幅	m	〃 1 〃	2 〃
	断面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
	平均断面積	m ²	〃 2 〃	3 〃
法面積	土量	m ²	〃 1 〃	2 〃
	距離	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	法長	m	〃 1 〃	2 〃
	平均法長	m	〃 2 〃	3 〃
	面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
コンクリートブロック (石)積(張) 面積	距離	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	法長	m	〃 1 〃	2 〃
	平均法長	m	〃 2 〃	3 〃
	面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
コンクリート・ アスファルト 体積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	高	m	〃 2 〃	3 〃
	長	m	〃 2 〃	3 〃
	体積	m ³	〃 1 〃	2 〃
型枠面積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	高	m	〃 2 〃	3 〃
	長	m	〃 2 〃	3 〃
	面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
鉄筋質量	φ径	mm	整数	1本当り質量は小数2位止 四捨五入1位四捨五入
	単位質量	kg/m	小数位以下3 有効数字3桁	
	質量	kg	整数位止	
足場・支保	幅	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	高	m	〃 1 〃	2 〃
	距離	m	〃 1 〃	2 〃
	面積	掛 m ²	整数位止	1位四捨五入
	体積	空 m ³	〃	1位 〃
粗朶沈床等面積	幅	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
	長	m	〃 1 〃	2 〃
	面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
舗装面積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	距離	m	〃 1 〃	2 〃
	面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
区画線	長	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	延長	m	小数位以下1位止	2位四捨五入
トンネル断面積	幅	m	小数位以下2位止	3位四捨五入
	高	m	〃 2 〃	3 〃
	長	m	〃 2 〃	3 〃
	断面積	m ²	〃 1 〃	2 〃
鋼材質量	幅	m	小数位以下3位止	4位四捨五入
	高	m	〃 3 〃	4 〃
	長	m	〃 3 〃	4 〃
	質量	kg	整数位止	但し鉄筋はcm止め(四捨五入)とする 1位四捨五入
ボルト質量	単位質量	g/本	整数位止	1位四捨五入
	本数	本	整数	
	質量	kg	整数位止	
塗装面積	幅	m	小数位以下3位止	4位四捨五入
	高	m	〃 3 〃	4 〃
	長	m	〃 3 〃	4 〃
	面積	m ²	〃 1 〃	2 〃

表－2 鋼板の質量

計算順序	計算方法	結果のけた数
基本質量 kg/mm/m ²	7.85 (厚さ/mm、面積/m ² の質量)	
単位質量 kg/m ²	基本質量 (kg/mm/m ²) × 板の厚さ (mm)	有効数字4けたの数値に丸める。
面積 m ²	幅 (m) × 長さ (m)	有効数字4けたの数値に丸める。
1枚の質量 kg	単位質量 (kg/m ²) × 面積 (m ²)	有効数字3けたの数値に丸める。 ただし、100～999kg は少数第1位、1,000kg をこえるものはkgの整数値に丸める。

表－3 平鋼の質量

計算順序	計算方法	結果のけた数
基本質量 kg/cm ² /m	0.785 (断面積/cm ² 、長さ/mの質量)	
単位質量 kg/m	基本質量 (kg/cm ² /m) × 断面積 (cm ²)	有効数字3けたの数値に丸める。
断面積 cm ²	幅 (mm) × 厚さ (mm) × 1 / 100	有効数字4けたの数値に丸める。
1枚の質量 kg	単位質量 (kg/m) × 長さ (m)	有効数字3けたの数値に丸める。 ただし、100～999kg は少数第1位、1,000kg をこえるものはkgの整数値に丸める。

ただし、「建設省土木構造物標準設計」(以下標準設計という。)に記載されている単位当り数量については、記載されている数値を使用するとともに、作業土工等で単位当りの数量を算出する場合は「標準設計」に記載されている数量表示に基づき算出するものとする。

1. 6 設計表示単位及び数値

1. 設計表示単位及び数値

設計表示単位数量は、検収区分ごとに定められた単位に、数量計算で求めた数量に応じて別表－1に定める数値に四捨五入して求めるものとする。
なお、設計表示数値に満たない数量の変更は設計変更の対象としないものとする。

- (1) 設計表示単位は、検収区分ごとに別表－1に定める単位により算出する。なお、ユニットプライス型積算基準の積算条件において「土木工事標準積算基準書による」と記載があるものについては、土木工事数量算出要領(案)第1編1.6設計表示単位及び数値による。
- (2) 設計数量が設計表示数値に満たない場合及び、工事規模、工事内容等により、設計表示数値が不相当と判断される場合は(小規模工事等)有効数値第1位の数量設計表示数値とする。
- (3) 別表－1以外の項目について、設計表示単位及び数値を定める必要が生じたときは、土木工事数量算出要領(案)第1編1.6設計表示単位及び数値によるほか、工事規模、工事内容等を勘案して適正に定めるものとする。
- (4) 設計表示単位及び数値の適用はユニット区分ごとを原則とし、工種・種別は1式を原則とする。

2. 数量の丸め

検収区分の内訳数量の丸め方法は、設計表示単位の1位下位の単位で丸めるものとし、調整は内訳内の最大数量で調整するものとする。

[別表-1]

ユニット区分	H21ユニット 積算基準頁	契約 単位	積算 単位	数値	備考
掘削	Ⅲ-直接-1-1	式orm3	m3	100	ただし1,000m3未満及び岩の場合は10m3
土砂等運搬	Ⅲ-直接-1-6	式orm3	m3	10	
整地	Ⅲ-直接-1-9	式orm3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
路体(築堤)盛土	Ⅲ-直接-1-11	式orm3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
路床盛土	Ⅲ-直接-1-13	式orm3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
積込(ルーズ)	Ⅲ-直接-1-18	式orm3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
土材料	Ⅲ-直接-1-22	m3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
法面整形	Ⅲ-直接-1-23	m2	m2	10	
残土運搬	Ⅲ-直接-1-25	式orm3	m3	10	
残土等処分	Ⅲ-直接-1-27	式orm3	m3	10	
軽量盛土工	Ⅲ-直接-1-36	m3	m3	1	
ジオテキスタイル	Ⅲ-直接-1-41	m2	m2	1	
覆土	Ⅲ-直接-1-48	m3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
安定シート・ネット	Ⅲ-直接-2-1	m2	m2	10	
サンドマット	Ⅲ-直接-2-2	m3	m3	10	
サンドマット(パイルネット)	Ⅲ-直接-2-3	m2	m2	10	
既製杭	Ⅲ-直接-2-4	本	本	1	
路床安定処理工	Ⅲ-直接-2-5	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
安定処理	Ⅲ-直接-2-6	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
置換	Ⅲ-直接-2-7	m3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
サンドドレーン	Ⅲ-直接-2-8	m	m	1	
袋詰式サンドドレーン	Ⅲ-直接-2-9	m	m	1	
ペーパードレーン	Ⅲ-直接-2-10	m	m	1	
サンドコンパクションパイル	Ⅲ-直接-2-11	m	m	1	
粉体噴射攪拌	Ⅲ-直接-2-12	本	本	1	
スラリー攪拌	Ⅲ-直接-2-13	本	本	1	
高圧噴射攪拌	Ⅲ-直接-2-14	本	本	1	
薬液注入	Ⅲ-直接-2-15	本	本	1	
泥水処理(現場内)	Ⅲ-直接-2-16	m3	m3	10	
泥水運搬	Ⅲ-直接-2-17	m3	m3	10	
天端コンクリート	Ⅲ-直接-3-1	m3	m3	1	
小型擁壁	Ⅲ-直接-3-4	m3	m3	1	
重力式擁壁	Ⅲ-直接-3-6	m3	m3	0.1	
もたれ式擁壁	Ⅲ-直接-3-8	m3	m3	0.1	
逆T型擁壁	Ⅲ-直接-3-10	m3	m3	0.1	
L型擁壁	Ⅲ-直接-3-12	m3	m3	0.1	
場所打函渠工	Ⅲ-直接-3-14	m3	m3	1	
小口止矢板	Ⅲ-直接-4-1	m	m	1	
鋼管杭	Ⅲ-直接-4-2	本	本	1	ただし1本当りは0.5m
場所打杭	Ⅲ-直接-4-3	本	本	1	ただし1本当りは0.1m
掘削土運搬	Ⅲ-直接-4-4	式orm3	m3	10	
掘削土処分	Ⅲ-直接-4-5	式orm3	m3	10	
既製コンクリート杭	Ⅲ-直接-4-6	本	本	1	ただし1本当りは1m
木杭	Ⅲ-直接-4-7	本	本	1	
間知ブロック張	Ⅲ-直接-5-1	m2	m2	1	
平ブロック張	Ⅲ-直接-5-3	m2	m2	1	
連節ブロック張	Ⅲ-直接-5-5	m2	m2	1	
大型連節ブロック張	Ⅲ-直接-5-8	m2	m2	1	
大型階段ブロック張	Ⅲ-直接-5-9	m2	m2	1	
間知ブロック積	Ⅲ-直接-5-11	m2	m2	1	
間知ブロック積	Ⅲ-直接-5-13	m2	m2	1	
緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-14	m2	m2	1	
緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-16	m2	m2	1	
大型緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-18	m2	m2	1	
大型緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-19	m2	m2	1	
吸出し防止材	Ⅲ-直接-5-23	m2	m2	10	ただし100m2未満は1m2
ブロック植樹	Ⅲ-直接-5-25	本	本	1	
石積	Ⅲ-直接-5-26	m2	m2	1	
石積	Ⅲ-直接-5-27	m2	m2	1	
石張	Ⅲ-直接-5-28	m2	m2	1	
種子散布	Ⅲ-直接-5-32	m2	m2	10	
客土吹付	Ⅲ-直接-5-34	m2	m2	10	
植生基材吹付	Ⅲ-直接-5-36	m2	m2	10	

ユニット区分	H21ユニット 積算基準頁	契約 単位	積算 単位	数値	備考
植生シート	Ⅲ-直接-5-38	m2	m2	10	
植生マット	Ⅲ-直接-5-40	m2	m2	10	
植生筋	Ⅲ-直接-5-42	m2	m2	10	
張芝	Ⅲ-直接-5-43	m2	m2	10	
筋芝	Ⅲ-直接-5-45	m2	m2	10	
市松芝	Ⅲ-直接-5-46	m2	m2	10	
人工張芝	Ⅲ-直接-5-47	m2	m2	10	
繊維ネット	Ⅲ-直接-5-49	m2	m2	10	
ラス張	Ⅲ-直接-5-50	m2	m2	10	
法面吹付工	Ⅲ-直接-5-51	m2	m2	1	
法枠	Ⅲ-直接-5-54	m2	m2	1	
法枠	Ⅲ-直接-5-55	m2	m2	1	
法面施肥	Ⅲ-直接-5-59	m2	m2	1	
中詰	Ⅲ-直接-5-60	m2	m2	1	
アンカー	Ⅲ-直接-5-62	m	m	1	
プレキャストコンクリート板	Ⅲ-直接-5-70	枚	枚	1	
鉄筋挿入	Ⅲ-直接-5-72	m	m	1	
プレキャストL型擁壁	Ⅲ-直接-5-74	m	m	1	H=2.0m未満。H=2.0m以上は0.1m
プレキャスト逆T型擁壁	Ⅲ-直接-5-76	m	m	1	H=2.0m未満。H=2.0m以上は0.1m
側溝付プレキャスト擁壁	Ⅲ-直接-5-78	m	m	1	H=2.0m未満。H=2.0m以上は0.1m
テールアルメ	Ⅲ-直接-5-80	m2	m2	1	
多数アンカー	Ⅲ-直接-5-81	m2	m2	1	
不陸整正(車道部)	Ⅲ-直接-5-82	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
調整コンクリート	Ⅲ-直接-5-85	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
橋面防水	Ⅲ-直接-5-86	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
アスファルト舗装工(車道部)	Ⅲ-直接-5-87	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
下層路盤(車道部)	Ⅲ-直接-5-88	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
路盤(路肩部)	Ⅲ-直接-5-91	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
上層路盤(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-92	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
路盤(歩道部)	Ⅲ-直接-5-95	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
基層(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-97	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
中間層(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-98	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
表層(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-101	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
表層(歩道部)	Ⅲ-直接-5-103	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
半たわみ性舗装	Ⅲ-直接-5-105	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
排水性舗装工(車道部)	Ⅲ-直接-5-106	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-107	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
排水性舗装・中間層(車道・路肩)	Ⅲ-直接-5-108	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
排水性舗装・基層(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-109	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
透水性舗装・フィルター層(歩道)	Ⅲ-直接-5-110	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
透水性舗装・表層(歩道部)	Ⅲ-直接-5-111	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
グースアスファルト舗装・基層	Ⅲ-直接-5-112	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
グースアスファルト舗装・表層	Ⅲ-直接-5-113	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
コンクリート舗装(車道部)	Ⅲ-直接-5-114	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
コンクリート舗装(歩道部)	Ⅲ-直接-5-115	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
転圧コンクリート舗装	Ⅲ-直接-5-120	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
薄層カラー舗装	Ⅲ-直接-5-121	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
インターロッキングブロック舗装	Ⅲ-直接-5-122	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
特殊ブロック舗装	Ⅲ-直接-5-123	m2	m2	10	ただし1,000m2未満は1m2
L型側溝	Ⅲ-直接-5-124	m	m	1	
U型側溝(本体)	Ⅲ-直接-5-127	m	m	1	
U型側溝(蓋)	Ⅲ-直接-5-128	枚	枚	1	
自由勾配側溝(本体)	Ⅲ-直接-5-130	m	m	1	
自由勾配側溝(蓋)	Ⅲ-直接-5-131	枚	枚	1	
管(函)渠型側溝	Ⅲ-直接-5-132	m	m	1	
管渠	Ⅲ-直接-5-136	m	m	1	ただし径1m以上管渠類は0.1m
集水樹・街渠樹(本体)	Ⅲ-直接-5-140	箇所	箇所	1	
集水樹(本体)	Ⅲ-直接-5-141	箇所	箇所	1	
蓋	Ⅲ-直接-5-142	枚	枚	1	
暗渠排水管	Ⅲ-直接-5-144	m	m	1	
マンホール	Ⅲ-直接-5-149	箇所	箇所	1	
プレキャストカルバート工	Ⅲ-直接-5-150	m	m	1	
歩車道境界ブロック	Ⅲ-直接-5-152	m	m	1	

ユニット区分	H21ユニット 積算基準頁	契約 単位	積算 単位	数値	備考
地先境界ブロック	Ⅲ-直接-5-154	m	m	1	
植樹ブロック	Ⅲ-直接-5-156	m	m	1	
間詰コンクリート	Ⅲ-直接-5-158	m3	m3	1	
間詰砕石	Ⅲ-直接-5-159	m3	m3	1	
客土	Ⅲ-直接-5-160	m3	m3	1	
植樹帯盛土	Ⅲ-直接-5-161	m3	m3	100	ただし1,000m3未満は10m3
アスカーブ	Ⅲ-直接-5-162	m	m	10	
踏掛版工	Ⅲ-直接-5-164	m3	m3	1	
溶融式区画線	Ⅲ-直接-5-165	m	m	10	ただし100m未満は1m
ペイント式区画線	Ⅲ-直接-5-167	m	m	10	ただし100m未満は1m
高視認性区画線	Ⅲ-直接-5-169	m	m	10	ただし100m未満は1m
区画線消去	Ⅲ-直接-5-170	m	m	1	
境界杭	Ⅲ-直接-5-172	本	本	1	
境界鉄	Ⅲ-直接-5-173	枚	枚	1	
視線誘導標	Ⅲ-直接-5-174	本	本	1	
道路鉄	Ⅲ-直接-5-176	個	個	1	
車線分離標	Ⅲ-直接-5-177	本	本	1	
標識柱(路側式)	Ⅲ-直接-5-179	基	基	1	
標識板(案内)	Ⅲ-直接-5-180	m2	m2	1	
標識板(警戒等)	Ⅲ-直接-5-181	基	基	1	
添架式標識板取付金具(標識板)	Ⅲ-直接-5-182	基	基	1	
標識基礎	Ⅲ-直接-5-183	m3	m3	1	
門型標識柱	Ⅲ-直接-5-185	kg	kg	1	
片持標識柱	Ⅲ-直接-5-187	kg	kg	1	
着雪防止板	Ⅲ-直接-5-189	m2	m2	1	
金網・ロープ(ロックネット)	Ⅲ-直接-5-190	m2	m2	10	ただし100m2未満は1m2
アンカー(ロックネット)	Ⅲ-直接-5-191	箇所	箇所	1	
支柱(ロックネット)	Ⅲ-直接-5-192	箇所	箇所	1	
繊維網	Ⅲ-直接-5-195	m2	m2	10	ただし100m2未満は1m2
落石防護柵	Ⅲ-直接-5-196	m	m	1	
遮音壁	Ⅲ-直接-5-200	m	m	1	
騒音低減装置	Ⅲ-直接-5-201	m	m	1	
ガードレール	Ⅲ-直接-5-202	m	m	1	
ガードケーブル	Ⅲ-直接-5-204	m	m	1	
ガードパイプ	Ⅲ-直接-5-206	m	m	1	
ボックスビーム	Ⅲ-直接-5-208	m	m	1	
車止めポスト	Ⅲ-直接-5-210	本	本	1	
立入防止柵	Ⅲ-直接-5-212	m	m	1	
転落(横断)防止柵	Ⅲ-直接-5-216	m	m	1	
植樹	Ⅲ-直接-5-220	本	本	1	
ケーブル配管(歩道部)	Ⅲ-直接-5-223	m	m	1	
ケーブル配管(交差点横断部)	Ⅲ-直接-5-224	m	m	1	
ハンドホール	Ⅲ-直接-5-226	箇所	箇所	1	
照明柱基礎	Ⅲ-直接-5-228	基	基	1	
防雪柵工	Ⅲ-直接-5-230	m	m	1	
雪崩予防柵工	Ⅲ-直接-5-232	基	基	1	
現場打基礎	Ⅲ-直接-6-1	m3	m3	1	
プレキャスト基礎	Ⅲ-直接-6-3	m	m	1	
矢板工(護岸基礎)	Ⅲ-直接-6-4	m2	m2	1	
矢板工(矢板護岸)	Ⅲ-直接-6-5	m2	m2	1	
一本土台	Ⅲ-直接-6-6	m	m	1	
片梯子土台	Ⅲ-直接-6-7	m	m	1	
梯子土台	Ⅲ-直接-6-8	m	m	1	
止杭一本土台	Ⅲ-直接-6-9	m	m	1	
笠コンクリート	Ⅲ-直接-6-10	m	m	1	
プレキャスト笠コンクリート	Ⅲ-直接-6-11	m	m	1	
巨石張	Ⅲ-直接-6-12	m2	m2	1	
巨石積	Ⅲ-直接-6-13	m2	m2	1	
巨石採取	Ⅲ-直接-6-14	個	個	1	
巨石据付	Ⅲ-直接-6-15	m2	m2	1	
かごマット	Ⅲ-直接-6-16	m2	m2	1	
柳枝	Ⅲ-直接-6-17	m2	m2	1	
玉石階段	Ⅲ-直接-6-18	m2	m2	1	

ユニット区分	H21ユニット 積算基準頁	契約 単位	積算 単位	數位	備考
杭柵	Ⅲ-直接-6-19	m	m	1	
連柴柵	Ⅲ-直接-6-20	m	m	1	
粗朶法覆	Ⅲ-直接-6-21	m2	m2	1	
玉石柳枝	Ⅲ-直接-6-22	m2	m2	1	
じゃかご	Ⅲ-直接-6-23	m	m	1	
ふとんかご	Ⅲ-直接-6-24	m	m	1	
かご枠	Ⅲ-直接-6-25	m	m	1	
石材料	Ⅲ-直接-6-26	m3	m3	0.1	
消波根固めブロック製作	Ⅲ-直接-6-27	個	個	1	
消波根固めブロック据付	Ⅲ-直接-6-29	個	個	1	
消波根固めブロック運搬	Ⅲ-直接-6-31	個	個	1	
消波根固めブロック仮置	Ⅲ-直接-6-32	個	個	1	
袋詰玉石	Ⅲ-直接-6-33	袋	袋	1	
粗朶沈床	Ⅲ-直接-6-36	m2	m2	1	
木工沈床	Ⅲ-直接-6-37	m2	m2	1	
改良沈床	Ⅲ-直接-6-38	m2	m2	1	
捨石	Ⅲ-直接-6-41	m3	m3	1	
元付	Ⅲ-直接-6-42	箇所	箇所	1	
杭出し水制	Ⅲ-直接-6-44	基	基	1	
配管設置(埋設部)	Ⅲ-直接-6-45	m	m	1	
配管設置(露出部)	Ⅲ-直接-6-47	m	m	1	
ハンドホール	Ⅲ-直接-6-48	箇所	箇所	1	
鋼・ゴム製伸縮装置	Ⅲ-直接-9-4	m	m	0.1	
埋設ジョイント	Ⅲ-直接-9-6	m	m	1	
防水工	Ⅲ-直接-12-1	m2	m2	10	ただし100m2未満は1m2
地被類植付	Ⅲ-直接-14-65	鉢	鉢	1	
殻運搬	Ⅲ-直接-15-29	m3	m3	1	
殻処分	Ⅲ-直接-15-30	m3	m3	1	

注) 築堤・護岸、道路改良及び舗装に対応するユニット区分のみ掲載している。

1. 7 図面表示単位

図面に表示する寸法単位は、mm とする。これ以外については単位を記入するものとする。
鋼材 JIS は、国際単位系 (SI) とする。

1. 8 単位体積質量

単位体積質量は、試験等を実施し定める他、各種示方書・指針に使用されている数値を用いるものとする。

数量計算に用いる 1 m³ 当り単位体積質量は、表-4 が一般的であるが、積算に用いる単価と合致するよう充分留意されたい。

表-4 単位体積質量

名称		規格	単位	単位質量	備考
土砂			kg	1, 800	
軟岩			〃	2, 200	
硬岩			〃	2, 500	
コンクリート		無筋	〃	2, 350	
		鉄筋	〃	2, 500	
アスファルト 混合物	車道用	密粒	〃	2, 350	
		粗粒	〃	2, 350	
		細粒	〃	2, 300	
		モルタル	〃	2, 100	
		安定処理	〃	2, 350	
	歩道用	密粒	〃	2, 200	
		粗粒	〃	2, 200	
		細粒	〃	2, 150	
砂			〃	1, 740	
切込砂利			〃	2, 020	
クラッシャーラン			〃	2, 040	
粒調碎石			〃	2, 100	
水硬性スラグ			〃	2, 080	
粒調スラグ			〃	2, 060	
クラッシャーランスラグ			〃	2, 060	
セメント			〃	3, 000	
ソイルセメント			〃	2, 100	
鋼材			〃	7, 850	
水			〃	1, 000	
木材			〃	800	
石材			〃	2, 600	

1. 9 数量の算出

各工種の数量は、各章の記載内容により算出するものとする。

- 1) 各工種の数量は、各ユニット区分（工種）の記載内容により算出するものとする。
また、数量は、施工箇所、構造物ごとに数量を取りまとめるものとする。
- 2) ユニットプライス型積算基準の積算条件において特に条件の定めが無く、「土木工事標準積算基準書による」と記載があるものについては、土木工事標準積算基準書に基づく「土木工事数量算出要領（案）」によるものとする。

なお、各章における「数量算出項目及び区分一覧表」に記載されている「○」、「×」が意味する内容は次のとおりである。

- 「○」……………数量算出項目の数量を算出するにあたって、○の区分については考慮する必要があることを示す。
- 「×」……………数量算出項目の数量を算出するにあたって、×の区分については考慮する必要がないことを示す。

第2編 ユニット編

- 1章 土 工
- 2章 地盤改良
- 3章 コンクリート
- 4章 道路・舗装
- 5章 河 川
- 6章 橋梁上部
- 7章 維 持
- 8章 撤 去

1 章 土 工

1.1 土工 (ユニット区分：掘削、土砂等運搬、整地、路体(築堤)盛土、積込(ルーズ)、路床盛土、土砂等運搬、残土運搬)

1.2 法面整形工 (ユニット区分：法面整形)

第1章 土工

1. 1 土工

1. 適用

河川、道路工事における土工に適用する。

2. 数量算出項目

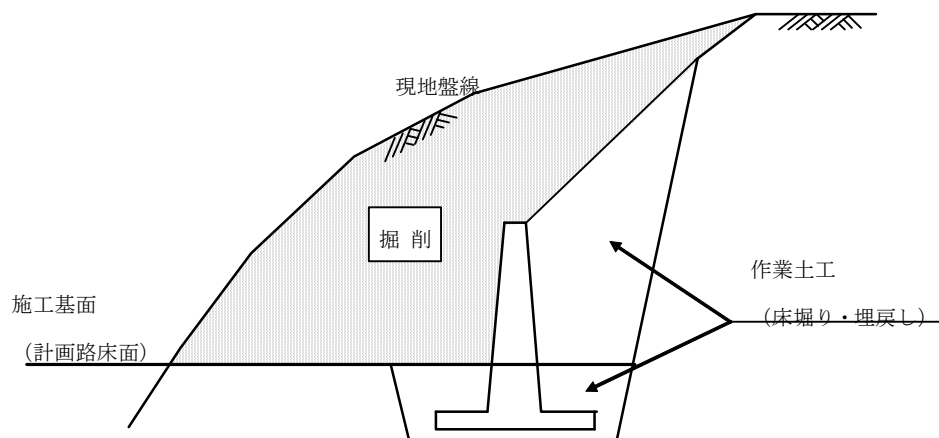
掘削、盛土、整地、残土処理、作業土工（床掘り・埋戻し）の土量を区分ごとに算出する。

(1) 掘削・床掘り（下図参照）

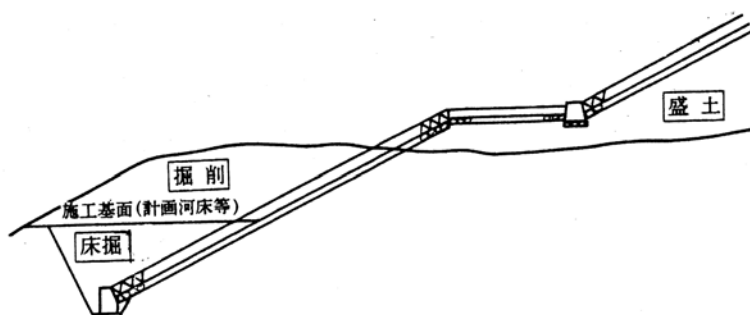
「掘削」とは、現地盤線から施工基面までの土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴わない箇所である。

また、「床掘り」とは、構造物の築造又は撤去を目的に、現地盤線又は施工基面から土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴う箇所である。ユニットプライス型積算方式では、作業土工は目的とする構造物の築造又は撤去の作業に含めるが、運搬等、配土計画に必要なため、数量の算出は行い、本章によるものとする。

(道路)



(河川)

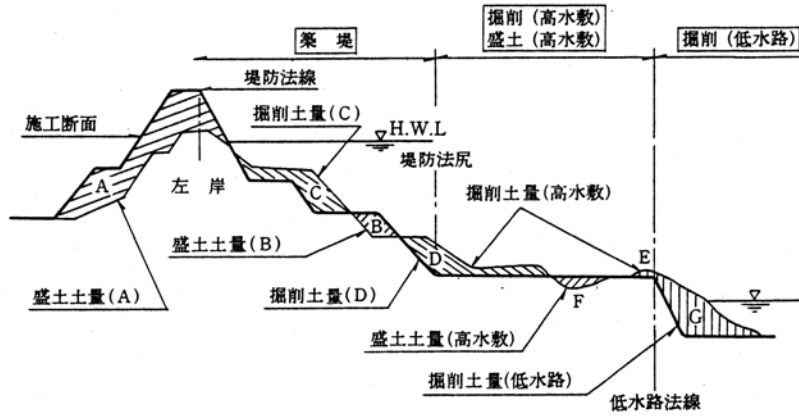


(2) 盛土 (下図参照)

「盛土」とは、現地盤線又は計画埋戻し線より上に土砂を盛り立てる箇所である。

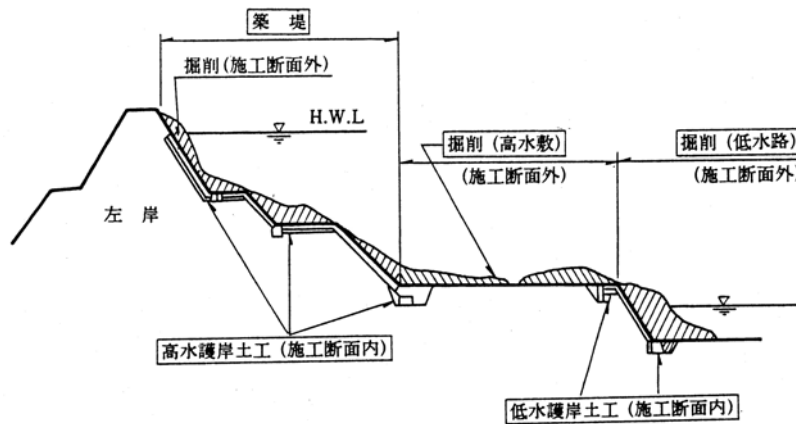
(河川)

①築堤と掘削



- 注) 1. 太線は計画線、細線は現況線を示す。
 2. A~Dは築堤、E、Fは高水敷土工、Gは低水路土工を示す。

②築堤と護岸



- 注) 1. 太線は計画線、細線は現況線を示す。

3. 区分

区分は、土質、構造物、施工方法、運搬とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目		区分				単位	数量	備考
		土質	構造物	施工方法	運搬			
土工	掘削	○	○	○	○	m ³		運搬距離も算出する
	路体（築堤）盛土	○	○	○	×	m ³		
	路床盛土	○	○	○	×	m ³		
作業 土工	床掘り	○	○	○	○	m ³		運搬距離も算出する
	埋戻し	○	○	○	×	m ³		
積込（ルーズ）		○	○	○	×	m ³		
整地		○	×	○	×	m ³		
土砂等運搬		○	○	×	×	m ³		運搬距離も算出する
残土運搬		○	○	×	×	m ³		〃

注) 1. 抜開除根及び表土はぎにより生じた廃棄物については、別途数量を算出する。
 2. 切土（発破）防護柵が必要な場合は、別途数量を算出する。

(2) 土質区分

土質区分については、下表のとおりとする。区分はA分類を標準とする。

表 土及び岩の区分

区分		説明	摘要	
A	B			
土砂	礫混り土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土	礫 (G) 礫質土 (GF)
	砂	バケツなど山盛り形状になりにくいもの	海岸砂丘の砂 マサ土	砂 (S)
	砂質土 (普通土)	掘削が容易で、バケツ等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂条件の良いローム	砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)
	粘性土	バケツ等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの	ローム 粘性土	シルト (M) 粘性土 (C)
	高含水比粘性土	バケツ等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土	シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)
	岩塊 玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツ等に空げきのでき易いもの。 岩塊、玉石は粒径 7.5cm 以上とし、まるみのあるのを玉石とする。		玉石まじり土、 岩塊破碎された岩、 ごろごろした河床
軟岩	軟岩	I	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は 1～5cm ぐらいのもの及び第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は 5～10cm 程度のもの。	地山弾性波速度 700～2800m/sec
		II	凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。 き裂間隔が 10～30cm 程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。	
硬岩	中硬岩	石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔 30～50cm 程度のき裂を有するもの。		地山弾性波速度 2000～4000m/sec
	硬岩	I	花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が 1m 内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度 3000m/sec 以上
		II	けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。	

(3) 構造物

構造物ごとに区分して算出する。

(4) 施工方法

「4. 数量算出方法」の断面積の算出方法による。

(5) 運搬

「土量配分図」を作成し、「押土の有無」「工区内運搬の有無」を算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

平均断面法によることを標準とする。

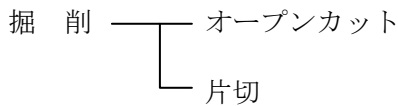
土量 = 平均断面積 × 延長

法断面 = 平均法長 × 延長

(1) 掘削

1) 断面積 (道路)

下記の項目に区分して算出する。



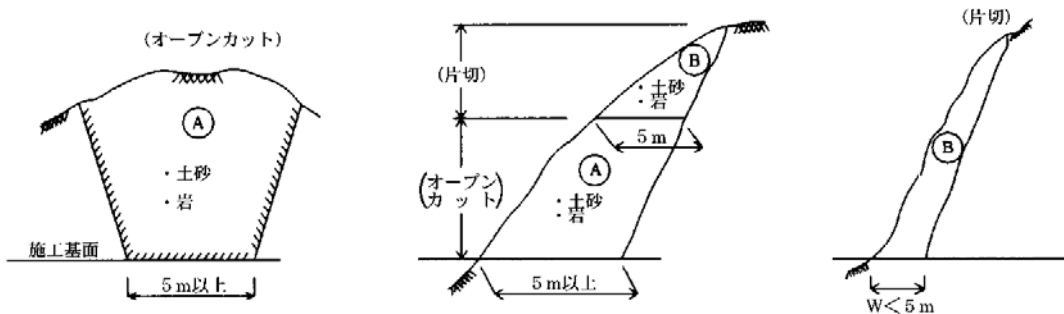
a) オープンカット

「オープンカット」は、下左図に示すような切取面が水平もしくは緩傾斜をなすように施工できる場合で切取幅 5m 以上、かつ延長 20m 以上を標準とする。

b) 片切

「片切」は、下中図及び下右図に示すような切取幅 5m 未満の領域 B を施工する場合とする。

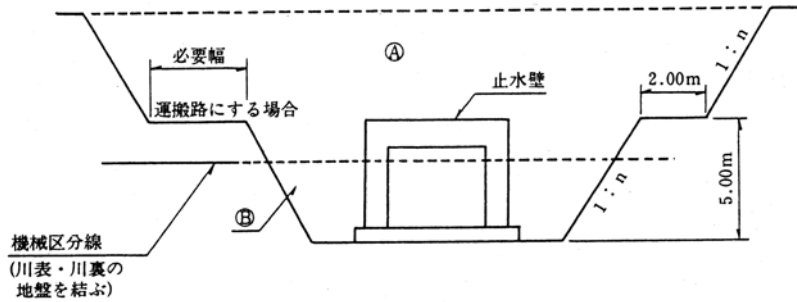
c) 下右図に示すような箇所 (領域 A) にあっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合はオープンカットを適用する。



2) 断面積 (河川)

「1. 適用 (2) 盛土」を参照の上算出する。

また、堤防横断構造物の場合、下図のとおり A 領域、B 領域に区分して算出する。



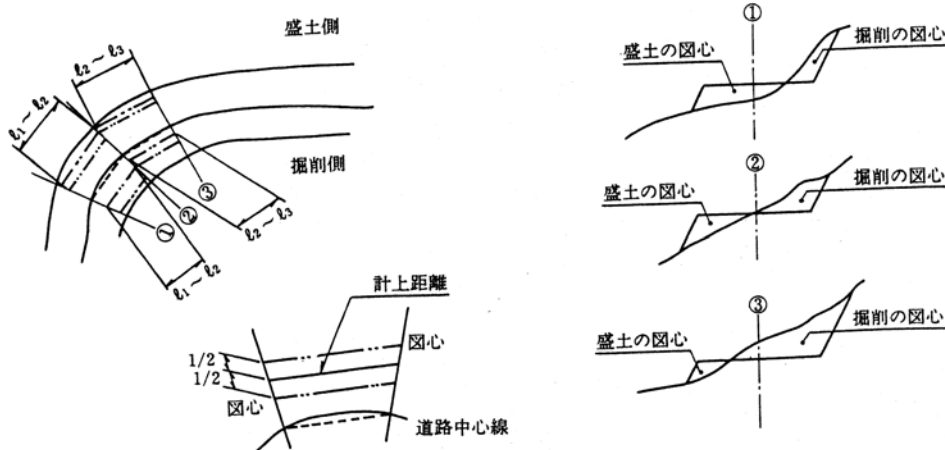
- 注) 1. 余裕幅は、止水壁から 0.5m を標準とする。
 (止水壁の無い場合の余裕幅は 0.5m を標準とする)
2. 法勾配 (n) ①砂地盤 1 : 1.5
 ②その他地盤 1 : 1.0
- 上記は、一般的な場合であり、これにより難しい場合は、
 法面安定計算等により設定する。
3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。

3) 距離のとり方 (道路)

道路中心線上の距離とすることを標準とする。

[参考]

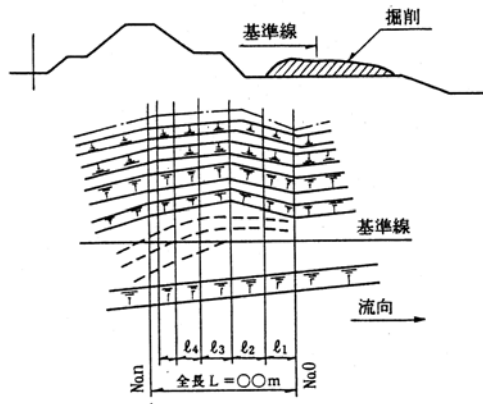
半径の小さな曲線部 (道路中心線で R=50m 未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが
 適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。



4) 距離のとり方 (河川)

a) 高水敷部分

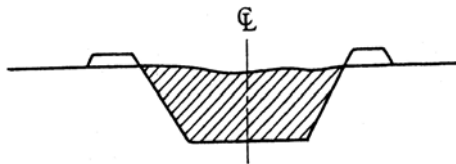
掘削横断面図の基準線を設定し、距離を決める。



b) 低水敷部分

低水路法線の距離を標準とする。ただし、曲線部でそれが不相当と判断される部分については、平均距離とする。

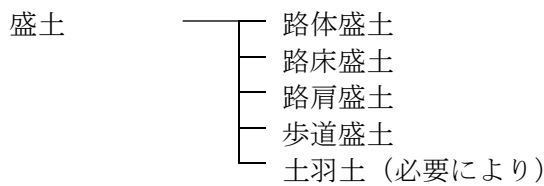
なお、水路等全断面掘削の場合は、下図のように中心線の距離を標準とする。



(2) 盛土

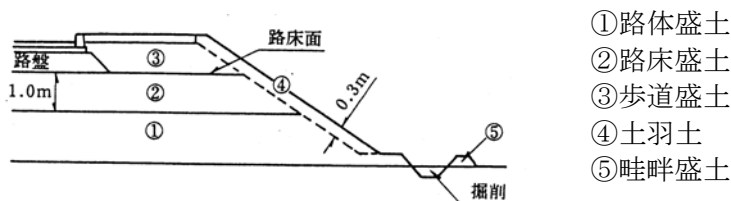
1) 断面積 (道路)

下記の項目に区分して算出する。(下図参照)

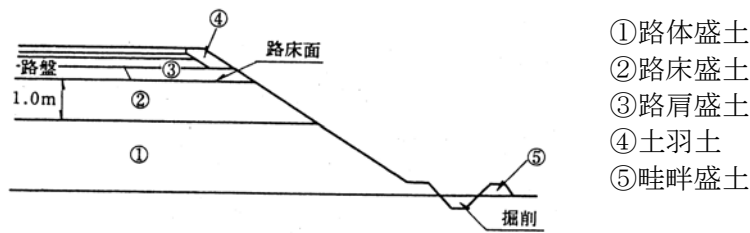


$$\text{※土羽土 } V \text{ (m}^3\text{)} = A \text{ (m}^2\text{)} \times 0.3 \text{ (m)}$$

a) 土羽土と路体等の材料が異なる場合



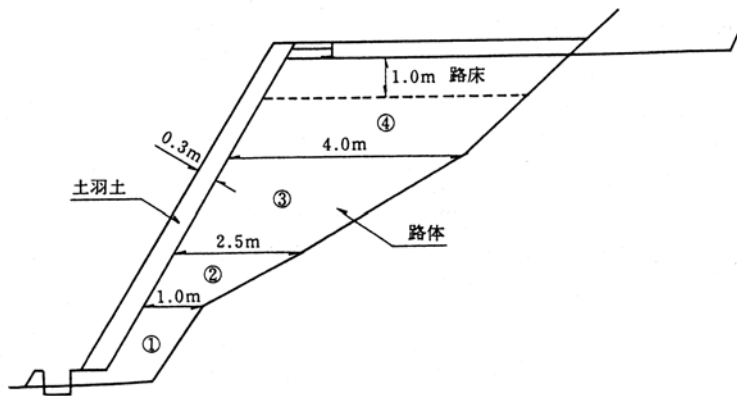
b) 土羽土と路体等の材料が同一の場合



- 注) 1. 路床は必要に応じて、上部路床と下部路床に区分して算出する。
 2. 畦畔盛土は必要に応じ計上する。
 3. 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。
 ①法面工が種子帯工及び筋芝の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料であっても区分する。
 ②①以外の法面工の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料でない場合に区分する。

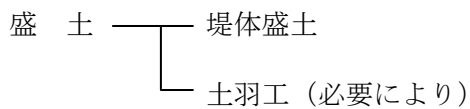
また、盛土下幅により下記とおりに区分して算出する。

- ①2.5m 未満
 ②2.5m 以上 4.0m 未満
 ③4.0m 以上



2) 断面積 (河川)

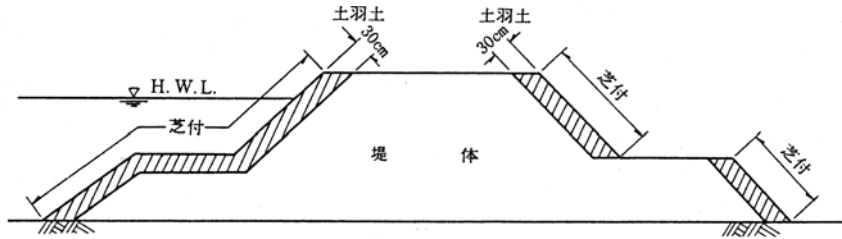
「1. 適用 (2) 盛土」を参照の上算出する。
 ただし、土羽土を計上する場合の堤体盛土量は、下記により算出する。



堤体盛土 $V_0 = \text{全体盛土 } V - V_1$
 土羽土 $V_1 = A \text{ (m}^2\text{)} \times 0.3 \text{ (m)}$
 面積 $A = \text{平均法長 } (\ell) \times \text{延長 } (L)$

また、盛土施工幅により下記のとおり区分して算出する。(1) 断面積 (盛土) 参照)

- ①1.0m 未満
 ②1.0m 以上 2.5m 未満
 ③2.5m 以上 4.0m 未満
 ④4.0m 以上



- 注) 1. 小段の土羽土は、小段に芝付けを施工する場合に計上する。
 2. 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。
 ①法面工が、種子帯工及び筋芝の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料であっても区分する。
 ②①以外の法面工の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料でない場合に区分する。

3) 距離の取り方 (道路)

道路中心線上の距離とすることを標準とする。

[参考]

半径の小さな曲線部 (道路中心線で $R=50m$ 未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、「(1) 掘削3) 距離のとり方 (道路) [参考]」による。

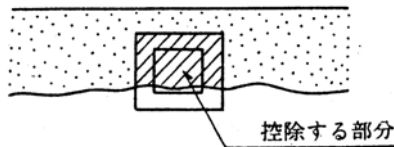
(3) 残土処理

残土処理の土量は地山土量とし、埋戻しの土量変化率 (C) を考慮する。

(例) 残土量 = 床掘り量 - 埋戻し量 × 土量変化率 (1/C)

(4) 控除土量

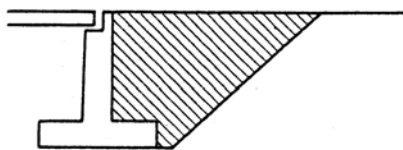
- 1) 横断構造物等 (管渠、函渠等) において、現地盤線以上の断面積が $1m^2$ 以上となる場合は、盛土量からこれを控除する。



- 2) 構造物に裏込め材を使用する場合には、盛土量からこれを控除し、別途裏込め材 (セレクト材) の数量を算出する。

注) セレクト材

堤防断面箇所については、堤体材料と同一材料とする。



1. 2 法面整形工

1. 適用

盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

2. 数量算出項目

法面整形の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、土質、整形箇所、土羽打ちの有無、現場制約の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	土質	整形箇所	土羽打ちの有無	現場制約の有無	単位	数量	備考
法面整形		○	○	○	○	m ²		

(2) 土質区分、整形箇所、土羽打ちの有無、現場制約の有無

土質による区分、整形箇所による区分、土羽打ちの有無及び現場制約の有無による区分は、下表のとおりとする。なお、現場制約「有り」とは現場が狭溢である場合であり、「無し」とは狭溢ではない場合を指す。

		砂・砂質土	粘性土	レキ質土	軟岩 I	軟岩 II、 中硬岩、 硬岩
切土部		○				
盛土部	土羽打有	○			○	○
	土羽打無	○				
	現場制約有	○				
	現場制約無	○				

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編共通編 1 章基本事項」によるほかユニット区分：土砂等運搬、積込（ルール）については「1. 1 土工」によるものとする。

2章 地盤改良

2.1 サンドマット工 (ユニット区分：安定シート・ネット、サンドマット)

2.2 置換工 (ユニット区分：置換)

2.3 固結工 (ユニット区分：泥水処理 (現場内))

第2章 地盤改良

2. 1 サンドマット工

1. 適用

地盤改良工におけるサンドマット、安定シート・ネットに適用する。

2. 数量算出項目

土量または面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は砂材料費の有無、シート種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	砂材料費の有無	シート種類	単位	数量	備考
サンドマット		○	○	×	m ³		
安定シート・ネット		○	×	○	m ²		

(2) 砂材料費（現地着）の有無

- ① 有り
- ② 無し

(3) シート種類

- ① シート
- ② ネット

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 土量は、締固め（敷均し）後土量とする。

(2) 安定シート・ネットの設計面積は、次式により算出する。

$$A_m = W \times L$$

A_m : 設計面積 (m²)

W : 設計幅員 (m)

L : 設計延長 (m)

(3) サンドマットの土量は、次式により算出する。

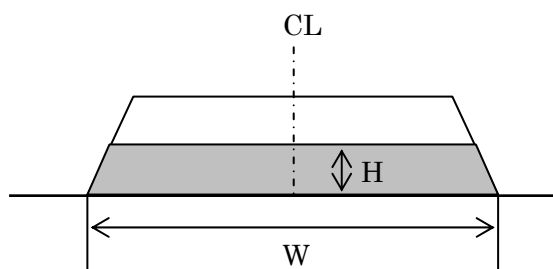
$$V_m = A_m + H_m + (1+K)$$

V_m : 土量 (m³)

H_m : 設計敷厚 (m)

A_m : 設計面積 (m²)

K : ロス率 (+0.23)



2. 2 置換工

1. 適用

地盤改良工における置換に適用する。

2. 数量算出項目

土量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は置換下幅とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	置換 下幅	単位	数量	備考
置換		○	m ³		

(2) 置換下幅

- ① 2.5m 未満
- ② 2.5m 以上 4.0m 未満
- ③ 4.0m 以上

4. 数量算出方法

数量の算出は、土木工事数量算出要領（案）「土工」（ページ 1-2-2）によるほか下記の方法によるものとする。

また、置換工におけるユニット区分：土砂等運搬、積込（ルーズ）については「1. 1 土工」によるものとする。

- (1) 砕石を使用する場合は、土木工事数量算出要領（案）「砕石基礎工」（ページ 1-9-2）によるものとする。
- (2) サンドマットを使用する場合は、土木工事数量算出要領（案）「サンドマット工」（ページ 1-8-2）によるものとする。

2. 3 固結工

1. 適用

構造物築造及び地盤改良等に伴い発生した汚泥、汚水の処理に適用する。

2. 数量算出項目

汚泥、汚水の処理量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は施工区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工区分	単位	数量	備考
泥水処理（現場内）		○	m ³		

(2) 施工区分

- ①薬液注入
- ②薬液注入以外

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

3 章 コンクリート

- 3.1 場所打擁壁工 (ユニット区分：小型擁壁、重力擁壁)
- 3.2 場所打函渠工 (ユニット区分：場所打函渠工)

第3章 コンクリート

3. 1 場所打擁壁工

3. 1. 1 小型擁壁

1. 適用

擁壁工、擁壁護岸工における小型擁壁（平均擁壁高さ 0.5m以上 1.0m以下）に適用する。

2. 数量算出項目

擁壁本体の設計コンクリートを算出する。
また、特殊養生については必要の有無を確認する。

3. 区分

区分は、特殊養生の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	特殊養生の有無	単位	数量	備考
小型擁壁		○	m ³		

(2) 特殊養生の有無

- ①有り
- ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）は擁壁本体コンクリート数量に含めない。
- (2) 化粧型枠は別途算出する。
- (3) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

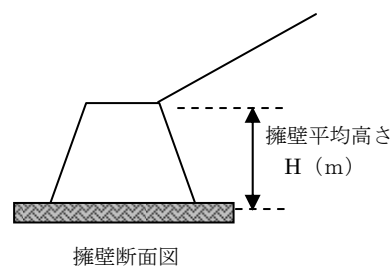
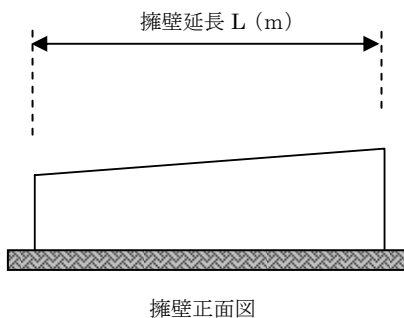
[参考図]

擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さ H (m)

$$H=A/L$$

A=正面図での擁壁面積 (m²)

H=擁壁延長 (m)



3. 1. 2 重力式擁壁

1. 適用

擁壁工、擁壁護岸工における重力式擁壁に適用する。

2. 数量算出項目

擁壁本体の設計コンクリートを算出する。
また、特殊養生については必要の有無を確認する。

3. 区分

区分は、平均擁壁高さ、特殊養生の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	平均擁壁高さ	特殊養生の有無	単位	数量	備考
重力式擁壁	○	○	m ³		

(2) 平均擁壁高さ

①1m 超 2m 未満 ②2m 以上 5m 以下 ③各種

(3) 特殊養生の有無

①有り ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）は擁壁本体コンクリート数量に含めない。
- (2) 化粧型枠は別途算出する。
- (3) 作業土工は、「1. 1 土工」によるものとする。

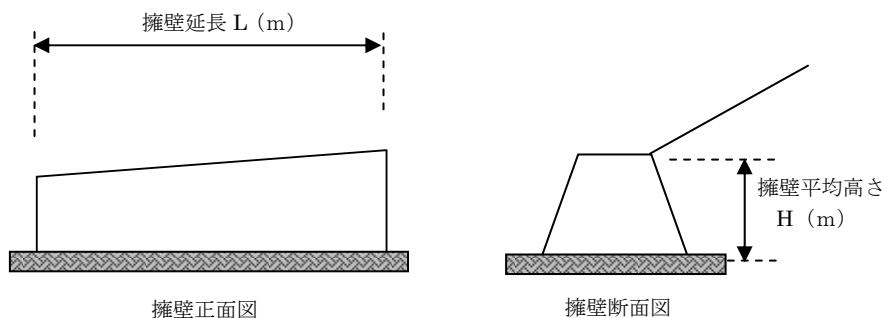
[参考図]

擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さ H (m)

$$H=A/L$$

A=正面図での擁壁面積 (m²)

H=擁壁延長 (m)



3. 2 場所打函渠工

1. 適用

カルバート工における現場打函渠工に適用する。

2. 数量算出項目

函渠本体コンクリート（ウイング、段落ち防止用枕を含む）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、函体断面積、コンクリート総体積、特殊養生の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	函体断面積	コンクリート総体積	特殊養生の有無	単位	数量	備考
場所打函渠工		○	○	○	m ³		

(2) 函体断面積

①4m²未満 ②4m²以上

なお、函体断面積とは頂版、側壁（中壁）、底版断面積の総和である。

[参考図]

$$\text{函体断面積 } A \text{ [m}^2\text{]} = (H + t_2 + t_3) \times 2 \times t_1 + (B \times t_2) + (B \times t_3)$$

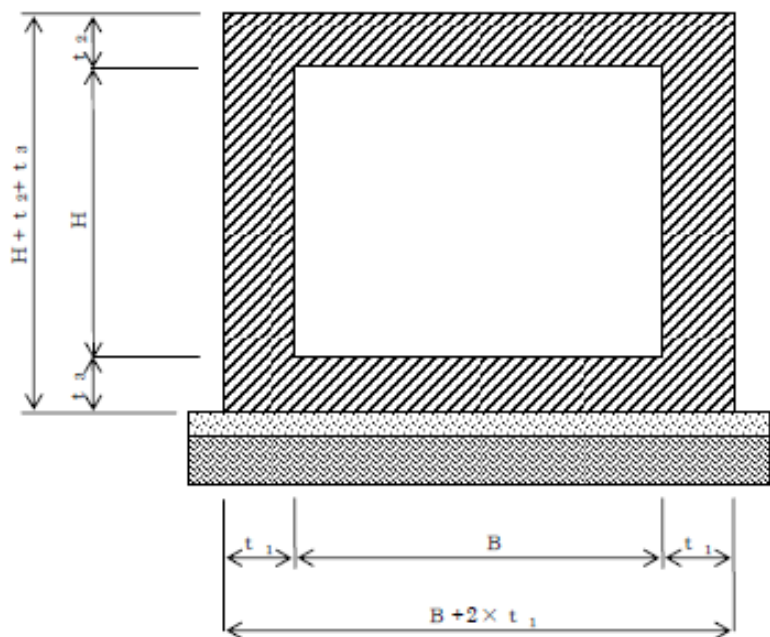
B：内空幅 [m]

H：内空高 [m]

t₁：側壁（中壁）厚 [m]

t₂：頂版厚 [m]

t₃：底版厚 [m]



(3) コンクリート総体積

①500m³未満 ②500m³以上

なお、コンクリート総体積は函体の他、ウィング、段落ち防止用枕を含む。

(4) 特殊養生の有無

①無し ②有り（練炭養生） ③有り（ジェットヒータ養生）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4 章 道路・舗装

- 4.1 コンクリートブロック工 (ユニット区分：天端コンクリート、間知ブロック張、間知ブロック積、吸出し防止材)
- 4.2 植生工 (ユニット区分：種子散布、客土吹付、植生基材吹付、植生シート、植生マット、張芝、筋芝、市松芝、ラス張)
- 4.3 法面吹付工 (ユニット区分：法面吹付工)
- 4.4 プレキャスト擁壁工 (ユニット区分：プレキャストL型擁壁)
- 4.5 舗装準備工 (ユニット区分：不陸整正(車道部)、調整コンクリート)
- 4.6 橋面防水工 (ユニット区分：橋面防水)
- 4.7 アスファルト舗装工 (性能規定型発注) (ユニット区分：アスファルト舗装工(車道部))
- 4.8 アスファルト舗装工 (ユニット区分：下層路盤(車道部)、路盤(路肩部)、上層路盤(車道・路肩部)、路盤(歩道部)、基層(車道・路肩部)、中間層(車道・路肩部)、表層(車道・路肩部)、表層(歩道部))
- 4.9 排水性舗装工 (性能規定型発注) (ユニット区分：排水性舗装工(車道部))
- 4.10 排水性舗装工 (ユニット区分：排水性舗装・中間層(車道部)、排水性舗装・基層(車道部)、排水性舗装・表層(車道・路肩部))
- 4.11 透水性舗装工 (ユニット区分：透水性舗装・フィルター層(歩道部)、透水性舗装・表層(歩道部))
- 4.12 コンクリート舗装工 (ユニット区分：コンクリート舗装(車道部)、コンクリート舗装(歩道部)、転圧コンクリート舗装))
- 4.13 薄層カラー舗装工 (ユニット区分：薄層カラー舗装)
- 4.14 ブロック舗装工 (ユニット区分：インターロッキングブロック舗装、特殊ブロック舗装)

- 4.15 側溝工 (ユニット区分：管(函)渠型側溝)
- 4.16 管渠工 (ユニット区分：管渠)
- 4.17 カルバート工 (ユニット区分：プレキャストカルバート工)
- 4.18 縁石工 (ユニット区分：歩車道境界ブロック、地先境界ブロック、アスカーブ)
- 4.19 踏掛版工 (ユニット区分：踏掛版工)
- 4.20 区画線工 (ユニット区分：溶融式区画線、ペイント式区画線、高視認性区画線、区画線消去)
- 4.21 境界工 (ユニット区分：境界杭、境界鋳)
- 4.22 道路付属物工 (ユニット区分：視線誘導標、道路鋳、車線分離標)
- 4.23 小型標識工 (ユニット区分：標識板(案内)、標識板(警戒等)、
添架式標識板取付金具(標識板))
- 4.24 大型標識工 (ユニット区分：標識基礎、片持標識柱、門型標識柱)
- 4.25 路側防護柵工 (ユニット区分：ガードレール)
- 4.26 防止柵工 (ユニット区分：転落(横断)防止柵)

第4章 道路・舗装

4. 1 コンクリートブロック工

4. 1. 1 天端コンクリート

1. 適用

本資料は、法覆護岸工における天端コンクリートに適用する。
ただし、一般養生以外の特殊養生（練炭養生、ジェットヒーター養生）の場合は除く。

2. 数量算出項目

天端コンクリートの体積を算出する。

3. 区分

区分は、ない。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 1. 2 間知ブロック張

1. 適用

本資料は、法覆護岸工における間知ブロック張（質量 150kg/個未満）の法勾配 1 割以上の場合に適用する。
ただし、一般養生以外の特殊養生（練炭養生、ジェットヒーター養生）の場合は適用しない。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、空張・練張とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	空張・練張	単位	数量	備考
間知ブロック張		○	m ²		

(2) 空張・練張

- ①空張
- ②練張

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編共通編 1 章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工面積には、現場打基礎、プレキャスト基礎、天端コンクリートの数量は含めない。
- (2) 作業土工は、「1. 1 土工」によるものとする。

4. 1. 3 間知ブロック積（築堤・護岸）

1. 適用

本資料は、法覆護岸工における間知ブロック積（質量 150kg/個未満）の法勾配 1 割未満の場合に適用する。

ただし、以下の場合には適用しない。

- （1）垂直高が練積において 7m を超える場合
- （2）垂直高が空積において 3m を超える場合
- （3）一般養生以外の特殊養生（練炭養生、ジェットヒーター養生）の場合

2. 数量算出項目

施工面積（ブロック積本体面積と調整コンクリート面積の合計）を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、空積・練積とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	空積・練積	単位	数量	備考
間知ブロック積		○	m ²		

（2）空積・練積

- ①空積
- ②練積

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編共通編 1 章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- （1）施工面積には、小口止、天端コンクリートの数量は含めない。
- （2）作業土工は、「1. 1 土工」によるものとする。

4. 1. 4 間知ブロック積（道路改良）

1. 適用

本資料は、法覆護岸工における間知ブロック積（質量 150kg/個未満）の法勾配 1 割未満の場合に適用する。

ただし、以下の場合には適用しない。

- (1) 空積の場合
- (2) 一般養生以外の特殊養生（練炭養生、ジェットヒーター養生）の場合

2. 数量算出項目

施工面積（ブロック積本体面積と調整コンクリート面積の合計）を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、平均法長とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均法長	足場工の有無	単位	数量	備考
間知ブロック積		○	○	m ²		

(2) 平均法長

- ①3.0m 以下
- ②3.0m 超 5.0m 以下
- ③5.0m 超 7.0m 以下
- ④各種

(3) 足場工の有無

- ①有り
- ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編共通編 1 章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 作業土工は、「1. 1 土工」によるものとする。

4. 1. 5 吸出し防止材

1. 適用

本資料は、吸出し防止材に適用する。

ただし、以下の場合には適用しない。

- (1) 小型擁壁で擁壁平均高さ 0.5m から 1m までの場合
- (2) 重力式擁壁で擁壁平均高さ 1m を越え 5m までの場合
- (3) もたれ式擁壁で擁壁平均高さ 3m から 8m までの場合
- (4) 逆 T 型擁壁で擁壁平均高さ 3m から 10m までの場合
- (5) L 型擁壁で擁壁平均高さ 3m から 7m までの場合
- (6) 道路工事で施工するボックスカルバートの 1 層 2 連まで、土被りが 9m 以下、かつ I 型（目地・止水版）を使用する場合
- (7) コンクリートブロック積で全面に設置する場合

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、設置条件とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	設置条件	単位	数量	備考
吸出し防止材		○	m ²		

(2) 設置条件

- ① 全面
- ② 点在

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第 1 編共通編 1 章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。

4. 2 植生工

1. 適用

種子散布、客土吹付、植生基材吹付、植生シート、植生マット、張芝、筋芝、市松芝、ラス張に適用する。

2. 数量算出項目

面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、種子種類、吹付厚、芝種、法面清掃とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	種子配合	種子種類	吹付厚	芝種	法面清掃の有無	単位	数量	備考
種子散布	○	○	×	×	×	m ²		
客土吹付	○	×	○	×	×	m ²		
植生基材吹付	○	×	○	×	×	m ²		
植生シート	○	×	×	×	×	m ²		
植生マット	○	×	×	×	×	m ²		
張芝	×	×	×	○	×	m ²		
筋芝	×	×	×	×	×	m ²		
市松芝	×	×	×	×	×	m ²		
ラス張	×	×	×	×	○	m ²		

(2) 種子種類

- ①標準 ②野芝

(3) 吹付厚

1) 客土吹付

- ①1cm ②2cm ③3cm

2) 植生基材吹付

- ①3cm ②4cm ③5cm ④6cm ⑤7cm ⑥8cm ⑦10cm

(4) 芝種

- ①切芝 ②ロール芝

(5) 法面清掃の有無

- ①有り (吹付枠においてラス張を施工する場合)
②無し (客土吹付、種子散布においてラス張を施工する場合)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工数量は、1工事の全体数量を算出する。
- (2) 張芝、筋芝、市松芝は、材料の総面積ではなく、対象となる法面の面積を算出する。

4. 3 法面吹付工

1. 適用

法面吹付工に適用する。

2. 数量算出項目

面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、吹付厚とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	吹付厚	単位	数量	備考
法面吹付工		○	m ²		

(2) 吹付厚

- ①5～7cm
- ②8～10cm
- ③15cm
- ④20cm

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 4 プレキャスト擁壁工

1. 適用

擁壁工、擁壁護岸工におけるプレキャストL型擁壁に適用する。

2. 数量算出項目

プレキャストL型擁壁の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、擁壁高さ、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	擁壁高さ	規格	単位	数量	備考
プレキャストL型擁壁		○	○	m		

(2) 擁壁高さ

- ①0.5m 超 1.0m 以下
- ②1.0m 超 1.5m 以下
- ③1.5m 超 2.0m 以下
- ④2.0m 超 2.5m 以下
- ⑤2.5m 超 3.0m 以下
- ⑥3.0m 超 3.5m 以下
- ⑦3.5m 超 4.0m 以下
- ⑧4.0m 超 4.5m 以下
- ⑨4.5m 超 5.0m 以下
- ⑩各種

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 5 舗装準備工

4. 5. 1 不陸整正（車道部）

1. 適用

舗装工における不陸整正（車道部）に適用する。

2. 数量算出項目

路床及び路盤の不陸整正の面積を区分ごとに算出する。
なお、補足材が必要な場合は、その対象面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料	単位	数量	備考
不陸整正		○	○	○	m ²		

(2) 補足材料の有無

- ①無し
- ②有り

(3) 補足材料平均厚さ

- ①25mm 未満
- ②25mm 以上 75mm 未満
- ③75mm 以上 125mm 未満
- ④125mm 以上 175mm 未満
- ⑤175mm 以上 225mm 未満
- ⑥225mm 以上 275mm 未満
- ⑦各種（上記以外実数）

(4) 補足材料

- ①RC-40・30
- ②C-40・30
- ③各種（上記以外名称）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 5. 2 調整コンクリート

1. 適用

舗装工における調整コンクリート（橋梁の歩道等の準備として行う）に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は平均敷厚（mm）とする。

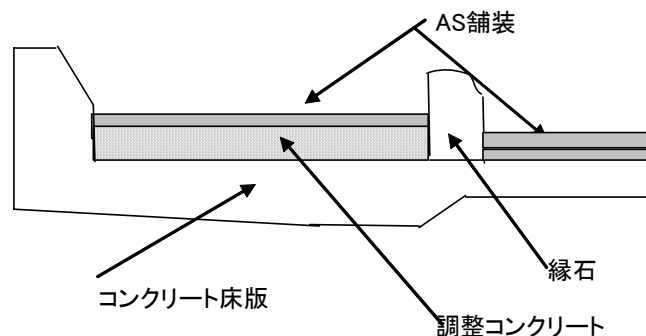
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均敷厚 (mm)	単位	数量	備考
調整コンクリート	○		m ²		

(2) 平均敷厚

- ①25mm 未満
- ②25mm 以上 75mm 未満
- ③75mm 以上 125mm 未満
- ④125mm 以上 175mm 未満
- ⑤175mm 以上 225mm 未満
- ⑥225mm 以上 275mm 未満
- ⑦275mm 以上 325mm 未満
- ⑧325mm 以上 375mm 未満
- ⑨375mm 以上 425mm 未満
- ⑩425mm 以上 475mm 未満
- ⑪各種（上記以外実数）

※参考図



4. 6 橋面防水工

1. 適用

舗装工における橋面防水（橋梁の床版部に行うもので、ドレーンまたは目地材ある場合を含む）等に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、防水工種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	防水工種類	単位	数量	備考
橋面防水		○	m ²		

(2) 防水工種類

- ①シート防水
- ②塗膜防水

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。

4. 7 アスファルト舗装工（性能規定型発注）

1. 適用

舗装工、付帯道路工において材料を指定しない性能規定型発注のアスファルト舗装工（車道部）に適用する。

なお、舗装構成が車道部と同一の場合は、路肩部にも適用できる。

2. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 各層ごとの数量算出は土木工事数量算出要領（案）「路盤工」（ページ 3-1-3）及び「アスファルト舗装工」（ページ 3-1-4）によるものとする。
- (2) 表層面積を算出するものとし、規格区分は舗装計画交通量、平均幅員、設計 CBR とする。

4. 8 アスファルト舗装工

1. 適用

アスファルト舗装工における下層路盤（車道部）、路盤（路肩部）、上層路盤（車道・路肩部）、路盤（歩道部）、基層（車道・路肩部）、中間層（車道・路肩部）、表層（車道・路肩部）、表層（歩道部）に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を算出する。

3. 区分

区分は、平均厚さ、平均幅員、材料規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ	平均幅員	材料	単位	数量
下層路盤（車道部）※1		○	○	○	m ²	
路盤（路肩部）※2		○	×	○	m ²	
上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	m ²	
路盤（歩道部）		○	×	○	m ²	
基層（車道・路肩部）		○	○	○	m ²	
中間層（車道・路肩部）		○	○	○	m ²	
表層（車道・路肩部）		○	○	○	m ²	
表層（歩道部）		○	○	○	m ²	

注 ※1 路肩部の舗装構成が車道部と同一の場合は路肩部の路盤にも適用する。

※2 路肩部の舗装構成が車道部と異なる場合に適用する。

(2) 平均厚さ

ユニット区分	平均厚さ区分	
下層路盤（車道部） 路盤（路肩部）	① 75mm 以上 125mm 未満 ② 125mm 以上 175mm 未満 ③ 175mm 以上 200mm 以下 ④ 200mm 超 225mm 未満 ⑤ 225mm 以上 275mm 未満 ⑥ 275mm 以上 325mm 未満	⑦ 325mm 以上 375mm 未満 ⑧ 375mm 以上 400mm 以下 ⑨ 400mm 超 425mm 未満 ⑩ 425mm 以上 475mm 未満 ⑪ 475mm 以上 525mm 未満 ⑫ 各種（上記以外実数）
上層路盤（車道・路肩部）	① 75mm 以上 125mm 未満 ② 125mm 以上 175mm 未満 ③ 175mm 以上 200mm 以下 ④ 200mm 超 225mm 未満 ⑤ 225mm 以上 275mm 未満 ⑥ 275mm 以上 325mm 未満	⑦ 325mm 以上 375mm 未満 ⑧ 375mm 以上 400mm 以下 ⑨ 400mm 超 425mm 未満 ⑩ 425mm 以上 475mm 未満 ⑪ 475mm 以上 525mm 未満 ⑫ 各種（上記以外実数）

ユニット区分	平均厚さ区分
路盤（歩道部）	① 75mm 以上 125mm 未満 ⑤ 200mm 超 225mm 未満 ② 125mm 以上 175mm 未満 ⑥ 225mm 以上 275mm 未満 ③ 175mm 以上 225mm 未満 ⑦ 275mm 以上 325mm 未満 ④ 225mm 以上 200mm 以下 ⑧ 各種（上記以外実数）
基層（車道・路肩部） 中間層（車道・路肩部） 表層（車道・路肩部）	① 35mm 以上 45mm 未満 ② 45mm 以上 55mm 未満 ③ 55mm 以上 65mm 未満 ④ 各種（上記以外実数）
表層（歩道部）	① 25mm 以上 35mm 未満 ② 35mm 以上 45mm 未満 ③ 45mm 以上 55mm 未満 ④ 55mm 以上 65mm 未満 ⑤ 各種（上記以外実数）

(3) 平均幅員

- ① 1.4m 未満 ② 1.4m 以上

(4) 材料

1) 下層路盤（車道部）、路盤（路肩部）、路盤（歩道部）

- ① RC-40・30 ② C-40・30 ③ 各種（左記以外実名称）

2) 上層路盤（車道・路肩部）

- ① 再生瀝青安定処理 ② RM-40・30 ③ M-40・30 ④ 各種（左記以外実名称）

3) 基層（車道・路肩部）、中間層（車道・路肩部）

- ① 再生粗粒度アスファルト混合物（20）
 ② 粗粒度アスファルト混合物（20）
 ③ 再生粗粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅠ型（20）
 ④ 粗粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅠ型（20）
 ⑤ 粗粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅡ型（20）
 ⑥ 各種（上記以外実名称）

4) 表層（車道・路肩部）

- ① 再生密粒度アスファルト混合物（20・13）
 ② 密粒度アスファルト混合物（20・13）
 ③ 密粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅡ型（20）
 ④ 各種（上記以外実名称）

5) 表層（歩道部）

- ① 再生密粒度アスファルト混合物（13・20）
 ② 再生細粒度アスファルト混合物（13）
 ③ 各種（左記以外実名称）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 9 排水性舗装工（性能規定型発注）

1. 適用

舗装工、付帯道路工において材料を指定しない性能規定型発注の排水性舗装工（車道部）に適用する。

なお、舗装構成が車道部と同一の場合は、路肩部にも適用できる。

2. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 各層ごとの数量算出は土木工事数量算出要領（案）「路盤工」（ページ 3-1-3）及び「アスファルト舗装工」（ページ 3-1-4）によるものとする。
- (2) 表層面積を算出するものとし、規格区分は舗装計画交通量、平均幅員、設計 CBR とする。

4. 10 排水性舗装工

1. 適用

排水性舗装工における排水性舗装・基層（車道・路肩部）及び表層（車道・路肩部）に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、平均厚さ、平均幅員、材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ	平均幅員	材料	単位	数量
排水性舗装・基層（車道・路肩部）		○	○	○	m ²	
排水性舗装・表層（車道・路肩部）		○	○	○	m ²	

(2) 平均厚さ

- ①35mm 以上 45mm 未満
- ②45mm 以上 55mm 未満
- ③55mm 以上 65mm 未満
- ④各種（上記以外実数）

(3) 平均幅員

- ①1.4m 未満
- ②1.4m 以上

(4) 材料

1) 基層（車道・路肩部）

- ①再生粗粒度アスファルト混合物（20）
- ②粗粒度アスファルト混合物（20）
- ③再生粗粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅠ型（20）
- ④粗粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅠ型（20）
- ⑤粗粒度アスファルト混合物ポリマー改質アスファルトⅡ型（20）
- ⑥各種（上記以外実名称）

2) 表層（車道・路肩部）

- ①ポーラスアスファルト混合物
- ②各種（上記以外実名称）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 路盤については、「4. 8アスファルト舗装工」によるものとする。

4. 1 1 透水性舗装工

1. 適用

透水性舗装工における透水性舗装・表層（歩道部）に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、平均厚さ、平均幅員、材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ	平均幅員	材料	単位	数量
透水性舗装・表層（歩道部）		○	○	○	m ²	

(2) 平均厚さ

- ①25mm 以上 35mm 未満
- ②35mm 以上 45mm 未満
- ③45mm 以上 55mm 未満
- ④各種（上記以外実数）

(3) 平均幅員

- ①1.4m 未満
- ②1.4m 以上

(4) 材料

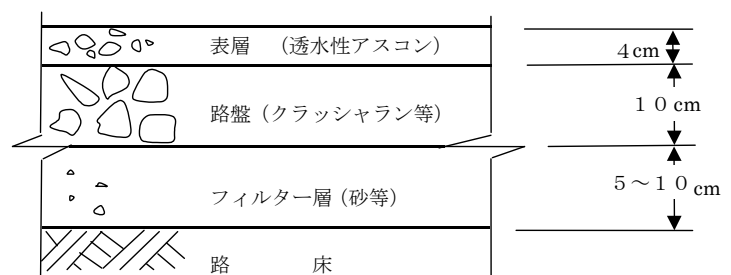
- ①透水性アスファルト混合物
- ②透水性開粒度アスファルト混合物(13)改質Ⅱ型
- ③各種（上記以外実名称）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 路盤（歩道部）については、「4. 8アスファルト舗装工」によるものとする。

(透水性アスファルト舗装の構成例)



4. 12 コンクリート舗装工

1. 適用

舗装工における平均厚さが 125mm 以上 315mm 未満のコンクリート舗装（車道部）に適用する。ただし、以下の場合には適用しない。

- (1) 連続鉄筋によるコンクリート舗装の場合
- (2) 歩道部のコンクリート舗装の場合
- (3) 転厚コンクリート舗装の場合

2. 数量算出項目

コンクリート舗装の数量面積を区分ごとに算出する

3. 区分

区分は、コンクリート版の平均厚さ（本線の平均厚さ）とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ	単位	数量	備考
コンクリート舗装（車道部）		○	m ²		

(2) 平均厚さ

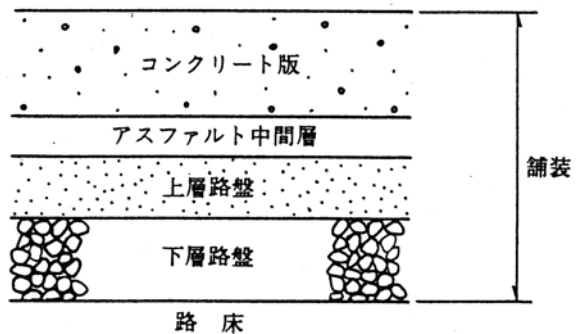
- ①125mm 以上 175mm 未満
- ②175mm 以上 225mm 未満
- ③225mm 以上 275mm 未満
- ④275mm 以上 285mm 未満
- ⑤285mm 以上 315mm 未満

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 路盤（歩道部）については、「4. 8アスファルト舗装工」によるものとする。

(コンクリート舗装の構成例)



4. 13 薄層カラー舗装工

1. 適用

薄層カラー舗装に適用する。ただし、加熱混合系薄層カラー舗装、型枠式カラータイル舗装、壁面、立ち上がり部を施工する場合には適用しない。

2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、舗装区分、施工箇所、規格・仕様、階段ステップ部の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	舗装区分	施工箇所	規格・仕様	階段ステップ部の有無	単位	数量	備考
薄層カラー舗装		○	○	○	○	m ²		

(2) 舗装区分

①樹脂モルタル舗装 ②景観透水性舗装 ③樹脂系すべり止め舗装

(3) 施工区分（※樹脂系すべり止め舗装のみ）

①車道 ②歩道（路側帯・スクールゾーン含む）

(4) 規格・仕様

1) 樹脂モルタル舗装

①厚 6mm 以下 ②厚 6mm 超え 8mm 以下 ③厚 8mm 超え 10mm 以下

2) 景観透水性舗装

①厚 10mm 以下 ②厚 10mm 超え 15mm 以下

3) 樹脂系すべり止め舗装（車道）

①RPN-1 ②RPN-1-2 ③RPN-2 ④RPN-3 ⑤RPN-4 ⑥RPN-5
⑦RPN-6 ⑧RPN-7 ⑨RPN-7-2 ⑩RPN-8 ⑪RPN-8-2 ⑫RPN-9
⑬RPN-10 ⑭RPN-11 ⑮RPN-12

4) 樹脂系すべり止め舗装（歩道）

①RPN-13 ②RPN-14 ③RPN-15

(5) 階段・ステップ部の有無（※樹脂モルタル舗装のみ）

①有り ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「4. 8 アスファルト舗装工」による。

(2) 路盤については、「4. 8 アスファルト舗装工」によるものとする。

4. 14 ブロック舗装工

1. 適用

ブロック舗装工における特殊ブロック舗装に適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、設置方式、ブロック規格、ブロック種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	作業区分	ブロック種類	ブロック規格	単位	数量	備考
特殊ブロック舗装		○	○	○	m ²		

※1 設置方式「撤去」もしくは「再利用設置」を選択した場合、ブロック種類、ブロック規格を区分する必要は無い。

(2) 作業区分

①設置 ②撤去 ③再利用設置

(3) ブロック種類

①平板ブロック ②透水性平板ブロック ③洗出・擬石平板ブロック ④点字ブロック

(4) ブロック規格

①30cm×30cm×6cm
②30cm×30cm×8cm
③30cm×30cm×3cm (点字ブロックのみ)
④各種 (上記以外実数)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 路盤については、「4. 8 アスファルト舗装工」によるものとする。

4. 15 側溝工

1. 適用

側溝工における管（函）渠型側溝に適用する。

2. 数量算出項目

延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、製品規格（製品長・内径又は内空幅）とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	製品規格 (製品長・内径又は内空幅)	単位	数量	備考
管（函）渠型側溝		○	m		

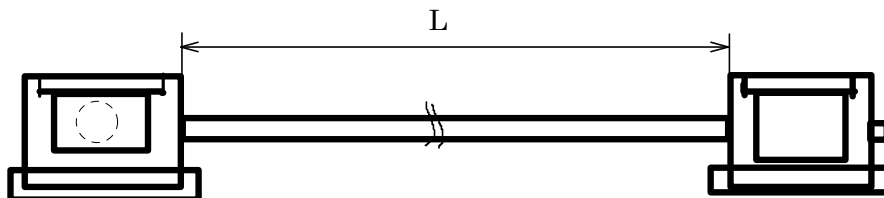
(2) 製品規格（製品長・内径又は内空幅）

①L=2000mm φ 300mm ②L=2000mm φ 400mm ③各種（上記以外実数）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。



(2) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 16 管渠工

1. 適用

管渠工における管渠に適用する。

2. 数量算出項目

延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、管種類、管径、巻きコンクリートとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	管種類	管径	巻き コンクリート	単位	数量	備考
管渠		○	○	○	m		

(2) 管種類

- ①ヒューム管 1種 ②ヒューム管 2種 ③PC管
④鉄筋コンクリート台付管 ⑤各種（上記以外実名称）

(3) 管径区分

1) PC管以外

- ①200mm ②250mm ③300mm ④350mm ⑤400mm ⑥450mm ⑦500mm
⑧600mm ⑨700mm ⑩800mm ⑪900mm ⑫1000mm ⑬1100mm ⑭各種（上記以外実数）

2) PC管

- ①600mm ②700mm ③800mm ④900mm ⑤1000mm ⑥1100mm ⑦各種（上記以外実数）

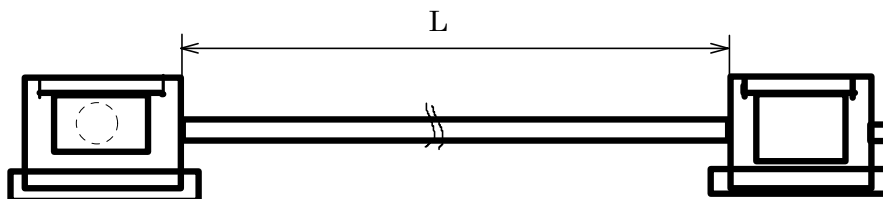
(4) 巻きコンクリート

- ①90°巻き ②180°巻き ③360°巻き ④無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。



(2) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 17 プレキャストカルバート工

1. 適用

カルバート工におけるプレキャストカルバート工に適用する。

2. 数量算出項目

プレキャストカルバート工の延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、内空寸法、材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	内空寸法	材料	単位	数量	備考
プレキャストカルバート工		○	○	m		

(2) 内空寸法

区分	内空幅：B (mm)	内空高：H (mm)
1	$600 \leq B \leq 750$	$600 \leq H \leq 670$
2	$600 \leq B \leq 750$	$670 < H \leq 850$
3	$750 < B \leq 950$	$600 \leq H \leq 670$
4	$750 < B \leq 950$	$670 < H \leq 850$
5	$750 < B \leq 950$	$850 < H \leq 980$
6	$950 < B \leq 1150$	$670 < H \leq 850$
7	$950 < B \leq 1150$	$980 < H \leq 1150$
8	$950 < B \leq 1150$	$1150 < H \leq 1350$
9	$950 < B \leq 1150$	$1470 < H \leq 1900$
10	$1150 < B \leq 1350$	$670 < H \leq 850$
11	$1150 < B \leq 1350$	$850 < H \leq 980$
12	$1150 < B \leq 1350$	$980 < H \leq 1150$
13	$1150 < B \leq 1350$	$1150 < H \leq 1350$
14	$1150 < B \leq 1350$	$1350 < H \leq 1470$
15	$1150 < B \leq 1350$	$1470 < H \leq 1900$
16	$1350 < B \leq 1650$	$980 < H \leq 1150$
17	$1350 < B \leq 1650$	$1150 < H \leq 1350$
18	$1350 < B \leq 1650$	$1350 < H \leq 1470$
19	$1350 < B \leq 1650$	$1470 < H \leq 1900$
20	$1650 < B \leq 2100$	$1470 < H \leq 1900$
21	$1650 < B \leq 2100$	$1900 < H \leq 2180$
22	$1650 < B \leq 2100$	$2350 < H \leq 2570$

区分	内空幅：B (mm)	内空高：H (mm)
23	$2100 < B \leq 2350$	$1470 < H \leq 1900$
24	$2100 < B \leq 2350$	$1900 < H \leq 2180$
25	$2100 < B \leq 2350$	$2180 < H \leq 2350$
26	$2100 < B \leq 2350$	$2570 < H \leq 2900$
27	$2350 < B \leq 2650$	$1470 < H \leq 1900$
28	$2350 < B \leq 2650$	$1900 < H \leq 2180$
29	$2350 < B \leq 2650$	$2350 < H \leq 2570$
30	$2350 < B \leq 2650$	$2900 < H \leq 3200$
31	$2650 < B \leq 3250$	$1470 < H \leq 1900$
32	$2650 < B \leq 3250$	$1900 < H \leq 2180$
33	$2650 < B \leq 3250$	$2350 < H \leq 2570$
34	$2650 < B \leq 3250$	$2570 < H \leq 2900$
35	$2650 < B \leq 3250$	$2900 < H \leq 3200$
36	$3250 < B \leq 3500$	$1900 < H \leq 2180$
37	$3250 < B \leq 3500$	$2350 < H \leq 2570$
38	各種	

(2) 材料

- ①RC, PC (150,300 型), ハイテンション
- ②PC (600 型)
- ③可とう
- ④各種

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 18 縁石工

4. 18. 1 歩車道境界ブロック

1. 適用

縁石工における歩車道境界ブロックの設置及び撤去再設置に適用する。

2. 数量算出項目

ブロック延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は作業区分、ブロック規格、基礎コンクリートの有無、基礎コンクリート厚さとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分						
	作業区分	ブロック規格	基礎コンクリートの有無	基礎コンクリート厚さ	単位	数量	備考
歩車道境界ブロック	○	○	○	○	m		

(2) 作業区分

①設置 ②撤去・設置

(3) ブロック規格

①A種 ②B種 ③C種 ④各種（左記以外種別実名称）

※参考 歩車道境界ブロック標準タイプ（片面R）の寸法

A種	150/170×200
B種	180/205×250
C種	180/210×300

(4) 基礎コンクリートの有無

①無し ②有り

(5) 基礎コンクリート厚さ

①5cm未満 ②5cm以上10cm未満 ③10cm以上15cm未満 ④15cm以上20cm未満
⑤20cm以上25cm未満 ⑥各種（左記以外実数）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 18. 2 地先境界ブロック

1. 適用

縁石工における地先境界ブロックの設置に適用する。

2. 数量算出項目

ブロック延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、ブロック規格、基礎コンクリートの有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	ブロック規格	基礎コンクリートの有無	単位	数量	備考
地先境界ブロック	○	○	m		

(2) ブロック規格

- ①120mm×120mm×600mm (A) ②150mm×120mm×600mm (B)
③150mm×150mm×600mm (C) ④各種 (上記以外実数・実名称)

(3) 基礎コンクリートの有無

- ①有り ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 18. 3 アスカーブ

1. 適用

縁石工におけるアスカーブ設置に適用する。

2. 数量算出項目

アスカーブの延長を算出する。

3. 区分

区分は材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	材料	単位	数量	備考
アスカーブ	○	m		

(2) 材料

- ①再生細粒度アスファルト混合物 (13)
- ②細粒度アスファルト混合物 (13)

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 19 踏掛版工

1. 適用

踏掛版の設置に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、鉄筋量とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	鉄筋量 (t/m ³)	単位	数量	備考
踏掛版工		○	m ³		

(2) 鉄筋量

- ①0.12 t/m³以上 0.16 t/m³未満
- ②0.16 t/m³以上 0.20 t/m³未満
- ③0.20 t/m³以上 0.24 t/m³未満
- ④0.24 t/m³以上 0.28 t/m³未満
- ⑤各種（上記以外実数）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 20 区画線工

4. 20. 1 溶融式区画線

1. 適用

道路に設置する区画線、道路標示のうち溶融式（手動）区画線に適用する。

2. 数量算出項目

区画線の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、塗装厚、規格仕様、表層種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	塗装厚	規格・仕様	表層種類	単位	数量	備考
溶融式区画線	○	○	○	m		

(2) 塗装厚

①1.5mm ②各種（左記以外実数入力）

(3) 規格・仕様

①15cm ②20cm ③30cm ④45cm ⑤矢印・文字・記号

(4) 表層種類

①排水性舗装以外 ②排水性舗装

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 矢印・記号・文字等については、面積・箇所ごとに15cm換算した延長を算出する。
- (2) 破線については、実際に塗布する延長とする。

4. 20. 2 ペイント式区画線

1. 適用

区画線工におけるペイント式区画線（自走）の設置に適用する。

2. 数量算出項目

区画線の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考
ペイント式区画線		○	m		

(2) 規格・仕様

①常温式 15cm ②加熱式 15cm ③加熱式 30cm ④各種

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 矢印・記号・文字等については、面積・箇所ごとに15cm換算した延長を算出する。
- (2) 破線については、実際に塗布する延長とする。

4. 20. 3 高視認性区画線

1. 適用

区画線工における高視認性区画線の設置に適用する。

2. 数量算出項目

区画線の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	施工箇所	規格・仕様	単位	数量	備考
高視認式区画線		○	○	m		

(2) 施工箇所

- ①供用区間 ②未供用区間

(3) 規格・仕様

- ①リブ式（熔融式） 白色・黄色実線 15cm
- ②リブ式（熔融式） 白色・黄色実線 20cm
- ③リブ式（熔融式） 白色・黄色実線 30cm
- ④リブ式（2液反応式） 白色・黄色実線 15cm
- ⑤リブ式（2液反応式） 白色・黄色実線 20cm
- ⑥リブ式（2液反応式） 白色・黄色実線 30cm
- ⑦非リブ式（熔融式） 白色・黄色実線・ゼブラ 15cm
- ⑧非リブ式（熔融式） 白色・黄色実線・ゼブラ 20cm
- ⑨非リブ式（熔融式） 白色・黄色実線・ゼブラ 30cm
- ⑩非リブ式（熔融式） 白色・黄色実線・ゼブラ 45cm
- ⑪貼付式 白色・黄色

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 20. 4 区画線消去

1. 適用

区画線工（高視認性の場合は、溶融式、2液反応式）における区画線の消去到適用する。

2. 数量算出項目

区画線の消去延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、消去方式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	消去方式	単位	数量	備考
区画線消去		○	m		

(2) 消去方式

①削取り式 ②各種（左記以外文字入力）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 15cm 換算した延長を算出する。

4. 2 1 境界工

1. 適用

境界杭（河川境界杭を含む）、境界鉸の設置工に適用する。

2. 数量算出項目

境界杭、境界鉸の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、設置条件、根巻き基礎の有無、材料区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	作業区分	根巻き基礎の有無	材料区分	単位	数量	備考
境界杭		○	○	○	本		
境界鉸		○	×	○	本		

(2) 作業区分

①設置 ②再利用設置

(3) 根巻き基礎の有無

①根巻基礎有り ②根巻基礎無し

(4) 材料区分

1) 境界杭

①標準（120mm×120mm） ②各種（文字入力）

2) 境界鉸

①標準（40mm×100m×2）（足付き） ②各種（文字入力）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 根巻基礎一体型の境界杭を用いる場合は、根巻基礎無しに区分する。

4. 2.2 道路付属物工

4. 2.2. 1 視線誘導標

1. 適用

視線誘導標の設置に適用する。

2. 数量算出項目

視線誘導標の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分、視線誘導標区分、設置方式、穿孔の有無、反射体の種類、規格・仕様、付属品の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	作業区分	視線誘導標区分	設置方式	穿孔の有無	反射体の種類	規格・仕様	付属品の有無	単位	数量	備考
視線誘導標	○	○	○	○	○	○	○	本		

(2) 作業区分

- ①設置 ②再利用設置

(3) 視線誘導標区分

- ①視線誘導標設置 ②視線誘導標設置（スノーポール併用型）

(4) 設置方式

- ①土中建込 ②コンクリート建込 ③防護柵取付 ④構造物取付

(5) 穿孔の有無

- ①穿孔含む ②穿孔含まない

(6) 反射体の種類

- ①片面 ②両面

(7) 規格・仕様

- ①反射体径φ100以下支柱径φ34
②反射体径φ100以下支柱径φ60.5土中建込
③反射体径φ100以下支柱径φ89コンクリート建込
④反射体径φ300以下支柱径φ60.5
⑤反射体径φ100以下バンド式
⑥反射体径φ100以下ボルト式防護柵取付
⑦反射体径φ100以下かぶせ式
⑧反射体径φ300以下バンド式
⑨反射体径φ100以下側壁用
⑩反射体径φ100以下ベースプレート式構造物取付
⑪反射体径φ300以下ベースプレート式

⑫反射体径φ100以下反射体個数1個スノーポール併用型

⑬反射体径φ100以下反射体個数2個

(8) 付属品の有無

①無し ②有り 防塵型(反射体径φ100以下) ③有り さや管

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 土中建込用においては、基礎を使用する場合も含めて算出すること。

4. 2 2. 2 道路鋸

1. 適用

道路鋸の設置工に適用する。

2. 数量算出項目

道路鋸の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分、設置方式、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	作業区分	設置方式	規格・仕様	単位	数量	備考
道路鋸	○	○	○	個		

(2) 作業区分

- ①設置 ②再利用設置

(3) 設置方式

- ①穿孔式 ②貼付式

(4) 規格・仕様

- ①大型鋸両面反射アルミ製設置幅 30cm
②大型鋸両面反射アルミ製設置幅 20cm
③大型鋸片面反射アルミ製設置幅 30cm 穿孔式
④大型鋸片面反射アルミ製設置幅 20cm
⑤小型鋸両面反射アルミ製設置幅 15cm
⑥大型鋸片面反射アルミ製設置幅 15cm
⑦小型鋸両面反射樹脂製設置幅 10cm 貼付式
⑧大型鋸片面反射樹脂製設置幅 10cm

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 2 2. 3 車線分離標

1. 適用

車線分離標の設置工に適用する。

2. 数量算出項目

車線分離標の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、設置方式、車線分離標規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	設置方式	車線分離標規格	単位	数量	備考
車線分離標		○	○	本		

(2) 設置方式

①穿孔式 ②貼付式

(3) 車線分離標規格

①高さ 400mm ②高さ 650mm ③高さ 800mm

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

4. 2.3 小型標識工

4. 2.3. 1 標識板（案内）

1. 適用

標識工における標識板（案内）に適用する。ただし、内部照明式もしくは外部照明式の標識板（案内）の設置、道路管理者以外が行う道路工事、着雪防止板の設置、移設等で材料費を含まない場合には適用しない。

2. 数量算出項目

標識板面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、標識板の規格、反射シートの種類、標識板の裏面塗装とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分			単位	数量	備考
	標識板の規格	反射シートの種類	裏面塗装の有無			
標識板（案内）	○	○	○	m ²		

(2) 標識板の規格

- ①2.0m²未満 ②2.0m²以上

(3) 反射シートの種類

- ①広角プリズム ②カプセルプリズム、カプセルレンズ ③封入レンズ

(4) 裏面塗装の有無

- ①有り ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) クランプ型ブラケットで取付ける場合は、必要組数を別途算出する。

4. 23. 2 標識板（警戒等）

1. 適用

標識工における標識板（警戒等・規制・指示・路線番号）に適用する。

2. 数量算出項目

標識基数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	作業区分	単位	数量	備考
標識板（警戒等）		○	基		

(2) 作業区分

①設置 ②再利用設置

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 板の枚数及び補助板の有無に関わらず、1基当たりとして算出する。

4. 23. 3 添架式標識板取付金具（標識板）

1. 適用

標識工における添架式標識板取付金具（標識板）に適用する。

2. 数量算出項目

標識 1 枚当り基数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分、設置箇所とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	作業 区分	設置 箇所	単位	数量	備考
標識板（警戒等）		○	○	基		

(2) 作業区分

①設置 ②再利用設置

(3) 設置箇所

①信号アーム部 ②照明柱・既設標識柱 ③歩道橋

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 取付金具の基数は、標識 1 枚当りの取付金具一式を 1 基とする。

4. 24 大型標識工

1. 適用

舗装工における道路標識の片持標識柱、標識基礎の設置工に適用する。

2. 数量算出項目

標識柱、標識基礎の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、基礎の規格、1基当り質量とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	基礎の規格	1基当り質量	単位	数量	備考
標識基礎		○	×	基		1基当り体積 (m ³ /基) も算出すること
片持標識柱		×	○	基		1基当り体積 (m ³ /kg) も算出すること

(2) 基礎の規格

①4m³未満 ②4m³以上 6m³未満 ③6m³以上

(3) 1基当り質量

①400kg未満 ②400kg以上

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 門型式における基礎の規格の対象は、左右各々の数量 (m³) を算出する。

(2) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 25 路側防護柵工

1. 適用

ガードレールの設置、再利用設置、撤去・設置に適用する。

2. 数量算出項目

ガードレールの延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分、ガードレール規格、ガードレール型式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	作業区分	ガードレール規格	ガードレール型式	単位	数量	備考
ガードレール	○	○	○	m		

(2) 作業区分

①設置 ②再利用設置 ③撤去・設置

(3) ガードレール規格

①A種（路側用） ②B種（路側用） ③C種（路側用）
④Am種（中央分離帯用） ⑤Bm種（中央分離帯用） ⑥各種（上記以外規格名）

(4) ガードレール型式

①標準型 ②耐雪型（積雪ランク 2） ③耐雪型（積雪ランク 3） ④耐雪型（積雪ランク 4・5）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) ガードレールの延長は、袖レールを含む延長とする。
- (2) 施工箇所ごとに数量を算出し、項目別に合計延長を算出する。
- (3) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

4. 26 防止柵工

1. 適用

防護柵工における転落（横断）防止柵に適用する。
ただし、以下の場合は適用しない。

- (1) パネル型式の場合
- (2) 良好な景観形成に配慮した（景観配慮型）型式の場合
- (3) 再利用設置の場合（設置手間のみの流用品・支給品等使用）
- (4) 撤去・設置の場合（同一物を撤去して、設置〔移設〕）
- (5) 撤去のみの場合

2. 数量算出項目

延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は防止柵種類、支柱間隔、建込方式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	防止柵種類	支柱間隔	建込方式	単位	数量	備考
転落（横断）防止柵		○	○	○	m		

(2) 防止柵種類

①転落防止柵（柵高 1.1m） ②横断防止柵（柵高 0.7～0.8m）

(3) 支柱間隔

①1m ②1.5m ③2m ④3m

(4) 建込方式

①土中建込 ②コンクリート建込 ③プレキャストコンクリートブロック建込

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 作業土工に関する数量算出については、2. 1. 1 土工によるものとする。

(2) 上記(1)～(3)のいずれか1つでも分類に当てはまらない転落（横断）防止柵の数量算出については土木工事数量算出要領（案）「防護柵工」（ページ 3-2-4～5）によるものとする。

5章 河川

- 5.1 基礎工 (ユニット区分：現場打基礎、プレキャスト基礎)
- 5.2 矢板工 (ユニット区分：矢板工 (護岸矢板))
- 5.3 多自然型護岸工 (ユニット区分：かごマット)
- 5.4 かご工 (ユニット区分：じゃかご、ふとんかご)

第5章 河 川

5. 1 基礎工

5. 1. 1 現場打基礎

1. 適用

本資料は、護岸基礎工、法覆護岸工等における現場打基礎に適用する。
ただし、練炭養生以外の特殊養生（ジェットヒーター養生）の場合は適用しない。

2. 数量算出項目

体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、打設地上高さ、特殊養生の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	打設 地上高さ	特殊養生 の有無	単位	数量	備考
現場打基礎	○	○	m ³		

(2) 打設地上高さ

- ①2m 以下
- ②2m 超

(3) 特殊養生の有無

- ①無し
- ②有り（練炭養生）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

5. 1. 2 プレキャスト基礎

1. 適用

本資料は、護岸基礎工、法覆護岸工におけるプレキャスト基礎に適用する。
ただし、一般養生以外の特殊養生（練炭養生、ジェットヒーター養生）の場合は適用しない。

2. 数量算出項目

体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、打設地上高さとする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	中詰材種類	基礎断面積	単位	数量	備考
プレキャスト基礎		○	○	m ³		

(2) 中詰材種類

- ①コンクリート
- ②コンクリート殻
- ③各種

(3) 基礎断面積

- ①0.25m²未満
- ②0.25 m²以上 0.5 m²未満
- ③0.5 m²以上 0.75 m²未満
- ④0.75 m²以上 1.0 m²未満
- ⑤各種

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

5. 2 矢板工

1. 適用

護岸基礎工における矢板工（護岸基礎）に適用する。

2. 数量算出項目

鋼矢板工の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、矢板長、矢板形式、環境対策及び現場条件、施工場所とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分						
	矢板長	矢板形式	環境対策及び現場条件	施工場所	単位	数量	備考
矢板工（護岸基礎）	○	○	○	○	m ²		

(2) 矢板長

①1m 超 2m 以下 ②2m 超 4m 以下 ③4m 超 25m 以下 ④各種（左記以外実数）

(3) 矢板形式

①Ⅱ型 ②Ⅱw型 ③Ⅲw型 ④Ⅳw型 ⑤各種（左記以外形式名）

(4) 環境対策及び現場条件

①必要なし（ $N_{max} < 50$ ）
②必要なし（ $50 \leq N_{max} < 100$ 又は転石あり）
③無振動（ $N_{max} \leq 25$ ）
④無振動（ $25 < N_{max} \leq 50$ 又は転石あり）
⑤各種

(5) 施工場所区分

①陸上 ②水上

4. 数量算出方法

数量の算出は、土木工事数量算出要領（案）「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 面積は施工延長に矢板長を乗じたものとする。

◎鋼矢板の面積算出例

施工延長 $L=23.6\text{m}$ 、Ⅲ型 $H=10\text{m}$ の場合 $23.6 \times 10.0 = 236\text{m}^2$

(2) 矢板長を施工場所（ブロック）ごとに算出する。

なお、矢板長に対する最大N値を算出しておくこと。

(3) 作業土工は、「1. 1土工」によるものとする。

5. 3 多自然型護岸工

1. 適用

本資料は、法覆護岸工におけるかごマットに適用する。

2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、かごマット種別、かご厚、かご本体材質とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	かごマット種別	かご厚	かご本体材質	単位	数量	備考
かごマット	○	○	○	m ²		

(2) かごマット種別

- ①スロープ式
- ②各種

(3) かご厚

- ①30cm
- ②50cm
- ③各種

(4) かご本体材質

- ①亜鉛アルミメッキ
- ②各種

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
- (2) 石材については、別途算出するものとする。

5. 4 かが工

5. 4. 1 じゃかご

1. 適用

本資料は、じゃかごに適用する。
ただし、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における施工の場合は、適用しない。

2. 数量算出項目

施工延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、じゃかご径、吸出し防止材の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	じゃかご径	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考
じゃかご		○	○	m		

(2) じゃかご径

- ①径 45cm
- ②径 60cm

(3) 吸出し防止材の有無

- ①有り
- ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
- (2) 石材については、別途算出するものとする。

5. 4. 2 ふとんかご

1. 適用

本資料は、ふとんかごに適用する。
ただし、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における施工の場合は、適用しない。

2. 数量算出項目

施工延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、ふとんかご種別、ふとんかご規格、吸出し防止材の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	ふとんかご種別	ふとんかご規格	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考
ふとんかご	○	○	○	m		

(2) ふとんかご種別

- ①スロープ式
- ②階段式

(3) ふとんかご規格

- ①40cm×120cm
- ②50cm×120cm
- ③60cm×120cm

(4) 吸出し防止材の有無

- ①有り
- ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
- (2) 石材については、別途算出するものとする。

6章 橋梁上部

6.1 伸縮装置工 (ユニット区分：鋼・ゴム製伸縮装置、埋設ジョイント)

第6章 橋梁上部

6. 1 伸縮装置工

1. 適用

橋梁上部工のゴム製伸縮装置、鋼製伸縮装置の設置工に適用する。

2. 数量算出項目

延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、伸縮装置規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	伸縮装置規格	単位	数量	備考
鋼・ゴム製伸縮装置		○	m		

(2) 伸縮装置規格

①各種（文字入力）

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 伸縮継手延長を算出する。

7章 維持

7.1 道路植栽工 (ユニット区分：植樹、地被類植付)

第7章 維持

7. 1 道路植栽工

1. 適用

道路の地被類植付に適用する。

2. 数量算出項目

鉢数を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分、土壌改良材の有無とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目	区分	土壌改良材の有無	単位	数量	備考
地被類植付		○	鉢		

(2) 土壌改良材の有無

①有り ②無し

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

8章 撤 去

8.1 運搬処理工 (ユニット区分：殻運搬)

第8章 撤去

8. 1 運搬処理工

1. 適用

構造物撤去工における殻運搬に適用する

2. 数量算出項目

運搬体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は種別とする。

(1) 数量算出項目区分一覧表

項目 \ 区分	種別	単位	数量	備考
殻運搬	○	m ³		

(2) 種別

- ①アスファルト殻
- ②コンクリート殻

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編共通編1章基本事項」によるものとする。

[参 考 資 料]

「平成 21 年度版 土木工事数量算出要領（案）」との対応表

[参考表-1]

ユニット区分	H21ユニット 積算基準頁	H21数量算出 要領(案)頁	備考
軽量盛土工	Ⅲ-直接-1-36	1-3-2~4	
ジオテキスタイル	Ⅲ-直接-1-41	1-6-5~7	
覆土	Ⅲ-直接-1-48	—	土工参照
サンドマット(パイルネット)	Ⅲ-直接-2-3	1-8-2~3	
既製杭	Ⅲ-直接-2-4	1-9-6~9	
路床安定処理工	Ⅲ-直接-2-5	1-2-16	
安定処理	Ⅲ-直接-2-6	1-2-16	
サンドドレーン	Ⅲ-直接-2-8	1-8-2~3	
袋詰式サンドドレーン	Ⅲ-直接-2-9	1-8-4	
ペーパードレーン	Ⅲ-直接-2-10	—	積算基準書参照
サンドコンパクションパイル	Ⅲ-直接-2-11	1-8-2~3	
粉体噴射攪拌	Ⅲ-直接-2-12	1-8-5~6	
スラリー攪拌	Ⅲ-直接-2-13	1-8-7~8	
高圧噴射攪拌	Ⅲ-直接-2-14	1-8-9~10	
薬液注入	Ⅲ-直接-2-15	1-8-11~13	
泥水運搬	Ⅲ-直接-2-17	—	
もたれ式擁壁	Ⅲ-直接-3-8	1-6-8~10	
逆T型擁壁	Ⅲ-直接-3-10	1-6-8~10	
L型擁壁	Ⅲ-直接-3-12	1-6-8~10	
小口止矢板	Ⅲ-直接-4-1	1-9-3~4	
鋼管杭	Ⅲ-直接-4-2	1-9-6~9	
場所打杭	Ⅲ-直接-4-3	1-9-11~20	
掘削土運搬	Ⅲ-直接-4-4	—	土工参照
既製コンクリート杭	Ⅲ-直接-4-6	1-9-6~9	
木杭	Ⅲ-直接-4-7	1-9-10	
平ブロック張	Ⅲ-直接-5-3	1-5-14~16	
連節ブロック張	Ⅲ-直接-5-5	1-5-14~16	
大型連節ブロック張	Ⅲ-直接-5-8	1-5-14~16	
大型階段ブロック張	Ⅲ-直接-5-9	1-5-14~16	
緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-14	1-5-14~16	
緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-16	1-5-14~16	
大型緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-18	1-5-14~16	
大型緑化ブロック積	Ⅲ-直接-5-19	1-5-14~16	
ブロック植樹	Ⅲ-直接-5-25	1-5-15	
石積	Ⅲ-直接-5-26	1-5-19	
石積	Ⅲ-直接-5-27	1-5-19	
石張	Ⅲ-直接-5-28	1-5-19	
植生筋	Ⅲ-直接-5-42	1-5-11~13	
人工張芝	Ⅲ-直接-5-47	1-5-11~13	
繊維ネット	Ⅲ-直接-5-49	1-5-11~13	
法枠	Ⅲ-直接-5-54	1-5-2~3、1-5-6~8	
法枠	Ⅲ-直接-5-55	1-5-2~8	
法面施肥	Ⅲ-直接-5-59	1-5-11~13	
中詰	Ⅲ-直接-5-60	1-5-2~8	
アンカー	Ⅲ-直接-5-62	1-11-36~37	
プレキャストコンクリート板	Ⅲ-直接-5-70	1-5-9	
鉄筋挿入	Ⅲ-直接-5-72	1-11-38~40	
プレキャスト逆T型擁壁	Ⅲ-直接-5-76	1-6-2	
側溝付プレキャスト擁壁	Ⅲ-直接-5-78	1-6-2	
テールアルメ	Ⅲ-直接-5-80	1-6-3~4	
多数アンカー	Ⅲ-直接-5-81	1-6-3~4	
アスファルト舗装工(車道部)	Ⅲ-直接-5-87	3-1-4	
半たわみ性舗装	Ⅲ-直接-5-105	3-1-4	
排水性舗装工(車道部)	Ⅲ-直接-5-106	3-1-8	
排水性舗装・中間層(車道・路肩部)	Ⅲ-直接-5-108	3-1-8	
透水性舗装・フィルター層(歩道部)	Ⅲ-直接-5-110	3-1-9	
グースアスファルト舗装・基層	Ⅲ-直接-5-112	3-1-10	
グースアスファルト舗装・表層	Ⅲ-直接-5-113	3-1-10	
コンクリート舗装(歩道部)	Ⅲ-直接-5-115	3-1-5~6	
転圧コンクリート舗装	Ⅲ-直接-5-120	3-1-7	
インターロッキングブロック舗装	Ⅲ-直接-5-122	3-2-27	
L型側溝	Ⅲ-直接-5-124	3-2-2~3	
U型側溝(本体)	Ⅲ-直接-5-127	3-2-2~3	

ユニット区分	H21ユニット 積算基準頁	H21数量算出 要領(案)頁	備考
U型側溝(蓋)	Ⅲ-直接-5-128	3-2-2~3	
自由勾配側溝(本体)	Ⅲ-直接-5-130	3-2-2~3	
自由勾配側溝(蓋)	Ⅲ-直接-5-131	3-2-2~3	
集水樹・街渠樹(本体)	Ⅲ-直接-5-140	3-2-2~3	
集水樹(本体)	Ⅲ-直接-5-141	3-2-2~3	
暗渠排水管	Ⅲ-直接-5-144	3-2-2~3	
マンホール	Ⅲ-直接-5-149	3-2-2~3	
植樹ブロック	Ⅲ-直接-5-156	—	
間詰コンクリート	Ⅲ-直接-5-158	1-4-2~5	
間詰砕石	Ⅲ-直接-5-159	—	
客土	Ⅲ-直接-5-160	—	
植樹帯盛土	Ⅲ-直接-5-161	—	
門型標識柱	Ⅲ-直接-5-185	3-2-23~24	
アンカー(ロックネット)	Ⅲ-直接-5-191	3-2-18~19	
支柱(ロックネット)	Ⅲ-直接-5-192	3-2-18~19	
繊維網	Ⅲ-直接-5-195	3-2-20	
落石防護柵	Ⅲ-直接-5-196	3-2-21~22	
遮音壁	Ⅲ-直接-5-200	3-2-31~35	
ガードケーブル	Ⅲ-直接-5-204	3-2-4~5	
ガードパイプ	Ⅲ-直接-5-206	3-2-4~5	
ボックスビーム	Ⅲ-直接-5-208	3-2-4~5	
車止めポスト	Ⅲ-直接-5-210	3-2-7	
立入防止柵	Ⅲ-直接-5-212	3-2-6	
植樹	Ⅲ-直接-5-220	3-2-38~39	
ケーブル配管(歩道部)	Ⅲ-直接-5-223	3-10-18	
ケーブル配管(交差点横断部)	Ⅲ-直接-5-224	3-10-18	
ハンドホール	Ⅲ-直接-5-226	3-10-19	
照明柱基礎	Ⅲ-直接-5-228	1-4-2~3、1-9-2	
防雪柵工	Ⅲ-直接-5-230	3-2-8~9	
雪崩予防柵工	Ⅲ-直接-5-232	3-2-10~11	
矢板工(矢板護岸)	Ⅲ-直接-6-5	1-9-3~4	
一本土台	Ⅲ-直接-6-6	1-9-26	
片梯子土台	Ⅲ-直接-6-7	1-9-26	
梯子土台	Ⅲ-直接-6-8	1-9-26	
止杭一本土台	Ⅲ-直接-6-9	1-9-26	
笠コンクリート	Ⅲ-直接-6-10	1-4-2~5	
巨石積	Ⅲ-直接-6-13	1-5-17~18	
巨石据付	Ⅲ-直接-6-15	1-5-17~18	
柳枝	Ⅲ-直接-6-17	—	積算基準書参照
玉石階段	Ⅲ-直接-6-18	—	
杭柵	Ⅲ-直接-6-19	—	
連柴柵	Ⅲ-直接-6-20	—	
粗朶法覆	Ⅲ-直接-6-21	—	
玉石柳枝	Ⅲ-直接-6-22	—	
かご枠	Ⅲ-直接-6-25	2-1-5~6	
消波根固めブロック製作	Ⅲ-直接-6-27	2-1-2~3	
消波根固めブロック据付	Ⅲ-直接-6-29	2-1-2~3	
袋詰玉石	Ⅲ-直接-6-33	2-4-10	
粗朶沈床	Ⅲ-直接-6-36	2-1-4	
木工沈床	Ⅲ-直接-6-37	2-1-4	
改良沈床	Ⅲ-直接-6-38	2-1-4	
捨石	Ⅲ-直接-6-41	2-1-7	
元付	Ⅲ-直接-6-42	1-4-2~5	
杭出し水制	Ⅲ-直接-6-44	—	
配管設置(埋設部)	Ⅲ-直接-6-45	2-8-2~6	
配管設置(露出部)	Ⅲ-直接-6-47	2-8-2~6	
ハンドホール	Ⅲ-直接-6-48	2-8-2~6	
埋設ジョイント	Ⅲ-直接-9-6	3-4-23~24	
防水工	Ⅲ-直接-12-1	3-10-11	

注) 築堤・護岸、道路改良及び舗装に対応するユニット区分のみ。